

MORE ABOUT JESUS.

ADAPTED FROM THE ENGLISH

BY

MISS HIDE MIKAMI.

三神英子女史譯

救主小傳

東京教文館發行

特18

484

MORE ABOUT JESUS.

ADAPTED FROM THE ENGLISH

MISS HIDE MIKAMI



三神英子女史譯

東京  
教文館發行

主  
小  
傳

明治

42 6 26

內容

はしがき

一章を生徒の前に読みをへて後、其終りにしるしある間に付き尋ねべし。  
教へ方は生徒の年齢又は、力に従ひて分ち、若し十歳以上の子供ならば先づあらかじめ、聖書の中の何章何節を読む様をしへおきて、子供自らに其答をさがし出さしむる方よからんも、其れ以下の年少者には、答を教へおく方よからむ。如何なる時にも、聖書の教は教訓とし、教へざるべからざるも、一方にまた、小兒等の心をよろこばしむる興味あるものとして教ふることを肝要なり。

救主小傳目次

第一章	年老いたる祭司	一
第二章	貧しき少女	六
第三章	少女マリアの訪問	八
第四章	小さき豫言者	十一
第五章	小さき救主	十三
第六章	キリストの宮詣	十五
第七章	博士等	十八
第八章	旅行	二十二
第九章	悲しめる母	二十五
第十章	大工	二十六

目次

第十一章 樂しき旅路……………二十九

第十二章 賢き幼児……………三十一

第十三章 熱心なる説教者……………三十四

第十四章 聖き鳩……………三十七

第十五章 荒野……………三十九

第十六章 羔……………四十一

第十七章 救主の家……………四十二

第十八章 宴會……………四十五

第十九章 市場……………四十七

第二十章 ひそかなる訪問……………五十

第二十一章 井……………五十二

第二十二章 四人の漁夫……………五十七

第二十三章 病める人……………六十

第二十四章 友なき人……………六十三

第二十五章 山上の祈り……………六十六

第二十六章 鬼につかれし人……………六十九

第二十七章 牢獄……………七十二

第二十八章 湖邊のゆふげ……………七十八

第二十九章 湖上の御あゆみ……………八十二

第三十章 我まゝなる人々……………八十五

第三十一章 榮光の峯……………八十九

第三十二章 憐れなる男子……………九十二

第三十三章 集金者……………九十五

第三十四章 忙しき婦人……………九十八

第三十五章 感謝にみちたるめしひ……………百

第三十六章 九人の恩知らず……………百〇五

第三十七章 熱心なる乞食……………百〇八

第三十八章 幸なる税吏……………百十二

第三十九章 悲しめる姉妹……………百十四

第四十章 真心ある婦人……………百十八

第四十一章 宮詣……………百二十二

第四十二章 貧しき寡婦……………百二十七

第四十三章 反逆者……………百三十

第四十四章 逾越の祝の備……………百三十三

第四十五章 逾越の祝……………百三十六

第四十六章 ゲッセマチの園……………百四十一

第四十七章 祭司の家……………百四十五

第四十八章 立關……………百四十九

第四十九章 自殺……………百五十

第五十章 司の家……………百五十三

第五十一章 十字架……………百五十八

第五十二章 兵卒の鎗……………百六十三

第五十三章 葬式……………百六十五

第五十四章 墓の番兵……………百六十八

第五十五章 復活……………百七十

第五十六章 夕方の旅……………百七十五

第五十七章 トマス……………百七十八

第五十八章 朝飯……………百八十

目次終

救主小傳

第一章 年老いたる祭司 (路一 二三)

(此等の節は課業の時よまるゝも、單に參考としてよまるゝもよし)

昔、ユダヤの國にエルサレムと申す大きな都が御座いました。此エルサレムの都には立派な御宮が御座いました。此れは、エホバ(神様)の宮と申しまして、小山の頂上に建てられある大きな、立派な御宮で御座いました。

御宮は雪の様に白い、大理石で出来て居りまして、其處此處に、ピカ／＼した金が塗つて御座いますから、大層美しく輝いて居ります。御宮の入口には黄金の門が御座いまして、其中に入つて参りますと、其れは、立派な御部屋が、御座います。御部屋の中を、見ますと、一方に七ツの金の燭臺が御座います。又他の方には、金の机が置いて御座いまして、丁度其真中に、黄金の香壇(神様に香を焚いて上げる

所)か御座います。

尙よく見ますと、其香壇の前に一人の年老いたる人が立って居ります。眞白い髭は長く延び白い麻の衣を付け、青と赤の雜つて居ります帯をしめ、白い頭巾を被つて、足には何んにもはいて居りません。此人はザカリヤと云ふ祭司で御座いました。(祭司と申しますと、御宮に於きまして、神様に事へて居る人で御座います)此ザカリヤは神様の御命令をよく守り誠に正しい人で御座いました。

今ザカリヤは香壇の上に香を焚き、熱心に御祈りを致して居ります。ザカリヤが、御祈りを致して居りました時壇の前にピカ／＼と輝いだ者が現はれて参りました。何んでしようか。此れは天の使で御座います。ザカリヤは、熱心に御祈りをし、また大層正直な祭司で御座いましたから、神様の御言付けに依つて、御使が今此處に現はれたので御座います。御使の着て居ります衣は、ザカリヤのよりも、すゞと白く、顔は燭臺の上のランプの光よりももつと／＼綺麗に輝いで居ります。

ザカリヤは、驚いて震へて居りますと、天の使は柔しく、「ザカリヤよ、神様は御恵を下して汝に一人の男子を興へ給へり、其名はヨハチと名くべし」と申しました。

此時ザカリヤは天の使の言葉を信じませんで、「天の使よ、吾等は年老いたれば、其事なかるべし」と申しました。すると御使は御怒りになつた様な顔をして、御去りになりました。何故御使は御怒りになつたかと申しますと、祭司は神様の御告げを疑ひましたからです。神様は、私共の到底出来ない事でも御出来になります。其方の御しやる事を、疑ひましたから、御使は御怒りになり、すぐ此處を御去りになつたので御座います。すぐ後で祭司は、黄金の戸の前に懸つて居ります幕をくゞつて、十二の石段を下りて、御宮の庭に出て参りました。其處には御庭一杯に澤山の人が集まつて、祭司ザカリヤの出て参りますのを、待つて居りました。其故今ザカリヤが石段を下りて参りますのを見て、人々は大變喜んで居ります。されどザカリヤは一言も御話する事が出来ませんで、手眞似ばかりして居ります。何故口が



さけないでしよう。ザカリアは神様の御告げを疑うて、信じませんでしたから、神様が御罰を御下しになつて啞に爲すつたのです。

ザカリアは人々の前に立ちました時、人々は讚美歌をうたひ、ラッパなど吹きまして、神様をほめたへましたが、ザカリアは何んにも歌ひ、又聞く事も出来ませんでした。

問 一、立派な建物は何んで御座いますか。

二、何んと云ふ都に御座いますか。

三、年老いたる祭司は誰れで御座いますか。

四、其人は何をして居りますか。(御宮の香壇に香を焚いて居ります。また外に澤山の祭司が御座いまして毎日香を上げる番を籤を引いて定めます)。

五、香は何んで御座いますか。(芳ばしき香のいたします木を上げるので御座います(出埃三〇))。

六、ザカリアは祭司の長で御座いますか。(イ、エ、通常の祭司で御座います)。

七、天の使の名は何んと申しましたか。(ガブリエル)。

八、何んな音づれを天の使は持つて参りましたか。

九、何故天の使は御怒りになりましたか。

十、神様は何んな罰をザカリアに、御降しになりましたか。

十一、何の位長い間、祭司は家に歸らずに、エルサレムに止まつて居りましたか。

(祭司は二十四の組に分れて居りまして、一人は一週間づ、御宮にて、服事をいたしました)。

(暗誦すべき聖書の句)

ザカリアに語りし天の使の言葉(路一、十九)

「われはガブリエルとて神の前に立つ者なり、汝に語りて、此喜の音づれを告げん爲に遣はされたり」。

第二章 貧しき少女 (路一、二六一—二九)

昔ガリラヤと申します處に、ナザレと云ふ小さな村が御座いました。其れは、山の側に御座いまして、大變土地が肥えて居りましたが、往來は狭くて急な坂になつて居りました。皆大概石造で、ごく粗末な、屋根の低い、家のみで御座いました。村の周りは、其處等一面麥畑や縁の牧場で、美しい、紅や青の花など咲き亂れて居りました。また、所々に房々と熟した葡萄蔓や橄欖樹、無花果樹等が其間々に繁つて居りました。

此小さなナザレの村の、ある貧しき家に、マリアと云ふ、少女が、住んで居りました。されどマリアは大變柔しい、おとなしい、清い心の、少女で御座いました。或る時、神様は、ガブリエルと申します御使を、マリアの所に、御遣しになりました。御使は少女マリアに向ひまして「懼るゝ勿れ、少女マリアよ、神様は汝に大

なる御恵を下して、一人の男の子を授け給へり、其名をイエスと名付くべし、彼は神の子と稱へられん」と言ひて、御使は去りました。少女は御使の去りましてからも、尙神様からの、御恵を、有難く思ひまして、其事に付て、考へて居りました。

問一、其村は何んど申しますか。

二、天の使の名は何んど申しますか。

三、少女の名は何んど申しますか。

四、何んな喜の音れを天の使は告げましたか。

五、其天の使が前に御宮にて、ザカリアに現はれた時から今は幾日經つて居りますか。(六ヶ月經つて居ります。)

少女マリアに告げし御使の言葉。

「マリアよ懼るゝ勿れ、汝は神より恵を得たり。」

第三章 少女マリアの訪問 (路一、二九—五七)

ユダヤの國に、祭司の村が十三御座いまして、其内の一ツの村に、祭司ザカリアは住んで居りました。村の名はよくわかりませんが、其村はナザレよりもすつと、山里で御住いまして、ナザレの様に美しい花や、縁の牧場等は御座いません、石地で御住いしましたから、唐もろこしや、葡萄等は、澤山出来ました。

此處にザカリアは年老いたる妻のエリサベツと共に住んで居りました。二人共大變年を取つて居りまして、一人の小供も、御住いませんでした。大層楽しく暮して居りました。けれ共ザカリアは、決して、誰れにも、御話しを致しません、只時々手眞似を致すのみで、御住いしました。何故と申しますと、ザカリアはエルサレムの御宮から、家に歸りましてから後、すーと啞になりまして、聞く事も、話す事も、出来ませんでした。今は家に居りますから、御宮に居りました時の様に、白い衣や、

白い頭巾を着けずに、其村の人々の様に長い、ちあやんとした、着物を着て、其上にゆるく、肩掛を着けて居りました。

或日、少女マリアは遠いナザレの村から、此靜な住家を訪づれました。エリサベツは、少女マリアとは從姉妹で御座いましたから、少女マリアの参りましたのを見まして、大變喜んで、厚く丁寧に、御もてなしを致しました。年取つたエリサベツは神様から、少女マリアに大なる御恵を、御下しになつた事を聞きまして、マリアを御祝ひ申しました。其時、少女マリアは、美しい聲で神様を讚美いたしました。其後少女はエリサベツがとめましたから、幾日も此處にとまつて居りました。此二人の御話や、美しい讚美歌もザカリアには聞えませんでした。

問一、其村は何んと申しますか。(誰れも知りませんが、多分ユダヤの十三の祭司の村の一ツで御座いませう)

二、其老人は誰れですか。

- 三、何故祭司の服を付けて居りませんか。(其れは御宮でばかり着けて居ります。)
- 四、如何御話を致しませんか。
- 五、年取ツた婦人は誰れですか。
- 六、少女は誰れですか。
- 七、何處から参りましたか。
- 八、何故エリサベツは其んなに丁寧(ていねい)にマリアをもてなしましたか。(マリアは神の子の御母さんになりますから。)
- 九、年取ツた婦人はマリアの友達ですか。(いとこで御座います。)
- 十、何故少女は従姉の處へ参りましたか。(天使が従姉にも、男子が産れると云ふ事を、話しましたから。)
- 十一、何んな讚美歌を少女は歌ひましたか。(其初めの句は「わが心、主をあがめ」と云ふのであります。)

十二、何位の間、少女は祭司の家に居りましたか。(三ヶ月居りました。)

少女マリアをほめしエリサベツの言葉(路一、四二、四三、)

「女の内にて汝は幸なる者なり、わが主の母われに来る、われ何によりてか此事を得し。」

第四章 小さな豫言者 (路一、五七—八〇、)

やがて山里なるザカリヤの家には男の子が生まれました。此時はもう少女マリアはナザレに歸りまして、此處には居りませんでした。一週間経ちまして八日目に、赤子に名を付け、御祝を致しますので、近所の人等や、親類の人など澤山ザカリヤの家に参りました。

ザカリヤは嬉しそうにエリサベツが赤子を抱いて居るのを見て、大變喜こんで居ります。

人々は赤子に御父さんの名を取つて、ザカリアと付け様と、エリサベツに相談致しました。エリサベツはヨハ子と名ける様にと申しましたから、人々は此度はザカリアに手眞似で、何んと名け様かと、聞きました。するとザカリアは書板を持つて來てもらひまして、前に御使が、御宮にて、告げた通りに、又エリサベツと同じくヨハ子と書きました。其處で人々は赤子にヨハ子と名けました。少し致しまして、急に、ザカリアの口は開けて、ものを言へる様になりました。ら、ザカリアは神様の大きな御恵を感謝いたしました。

問一、祭司の名は何んと申しますか。

二、赤子の名は何んと申しますか。

三、親類の人や近所の人等はザカリアの家は何しに参りましたか。

四、此人等は何を相談して居りますか。

五、エリサベツは人々がザカリアと名け様と申しました時、何故ヨハ子、

る様に申しましたか。(ザカリアは書板にかいて、前に御宮にて、御使の御告げをエリサベツに話しましたからです。)

六、ザカリアは書板に、何んと名を、書きましたか。

七、何故ザカリアはものを言ふ様になりましたか。

八、何故ザカリアは赤子を見て大層喜びましたか。(バブテスマのヨハ子はキリストの事を人々に知らする、大豫言者となりますから。)

赤子に向ひていひしザカリアの言葉。路一、七六、

「幼児よ汝は、至上者の豫言者と稱へられん。」

第五章 小さな救主 (路二、一一二〇)

ある日少女マリアと夫なるヨセフとはナザレを旅立ちましてユダヤの國のベツレヘムと云ふ村に参りました、ベツレヘムは少女マリアとヨセフの古郷で御坐いました

から参りまして宿屋にとまらうと致しましたが、澤山の人で皆宿屋は一つばいで御坐いましたから致方なしに馬小屋に泊りました。丁度其晩少女マリアに男の子が生まれました。赤兒を長い布にて包み槽の内に寝かしておき、マリアとヨセフとは其近くに坐つて居りました時、二三人の羊牧者は入つて参りました、其羊牧人等は其夜野にて羊を牧つて居りました時天の使が現はれて今日ベツレヘムに救主が御生れになつて槽にねて入らつしやるが、それはキリストであると云ふ喜の音づれを告げましたから、羊牧等は大喜ぎで、此處に参り小さく救主を拜しました、彼等は赤兒を拜しまして後乙女マリアに御使が現はれて語りました事を御話致しました。乙女マリアは神様の御惠の深い事を感謝致しました。羊牧者等は神をはめたへつ、其處を去り遇ふ人毎に槽にふして入らつしやる小さい救主の事を語りました。

問一、其村は何んと申しますか。

- 一、赤兒と御母さんの外にも一人は誰れですか。
  - 二、誰れが夜馬小屋を訪れましたか。
  - 三、誰れが羊牧者等に行く様に告げましたか。
  - 四、羊牧者等はどなたをはめたへましたか。
  - 五、羊牧者に語りし御使の言葉、(路二、十)
- 「懼る、勿れ、われ萬民にかゝはりたる、大なる喜の音づれを、汝等に告ぐべし」。

第六章 キリストの宮詣 (路二、二二—二八)

丁度キリストが御生れになつてから四十日たつてマリアは赤子にさせる長い着物をキリストにさせて夫ヨセフと共に、エルサレムの宮へ、御参りを致しました。三人は御宮の石段を昇り、黄金の門をくゞつて、石圍ひのしてある廣い御庭へ参りました、此時キリストは實に御可愛らしう御坐いました、丁度鳩の様に御美しく御惠

み深い御顔をした赤ちやんで入らしやいました。  
 今乙女マリアは一緒に持つて参りました二羽の鳩を、眞白な衣を着せた祭司に渡し  
 ました。此れは神様が乙女マリアにキリストを御授け下さいましたから神様に捧げ  
 る爲に持つて参つたので御坐います。小羊を捧げる人も御坐いますが、乙女マリアの  
 家は貧しう御坐いましたから鳩を捧げました。ユダヤの國では、一番初めの男の子  
 は神様の御子様であると申して居りまして、赤子が生れて四十日たちますと、御宮  
 に参りまして、捧物を供へて御祭をいたしました。

マリアが捧物を致しました時エルサレムの人で、シメオンと申す老人がイエスを拜  
 せんが爲に参りました。此シメオンと云ふ人は大變正しい人で御坐いましたから神  
 様より御告げが御坐いまして救主なるキリストを見る迄は死なゝいと云ふ事を知り  
 ました。シメオンは今聖靈により、神の子キリストが御宮に御参りになつたことを  
 知り來りて、キリストを抱て拜し、神様に感謝致しました。

また御宮にアンナと云ふ年取つた女の預言者が居りました。此人はやもめで、其時  
 八十四歳位で御坐いましたが、夜も晝も御宮に居りまして、御祈りをし斷食をして  
 神様に事へて居りました。

アンナは今シメオンがイエスを拜して居りますのを見て、其側に立ちてキリストを  
 拜し救主の御生れになつた事を感謝致しました。又自分の周りに居る人々に其事を  
 話しました。

問一、其赤子は誰れですか。

二、赤子の御母さんは誰れですか又其夫は誰れですか。

三、赤兒が生れて幾日たつて居りましたか。(四十日)。

四、キリストは何故御宮に御参りになりましたか。(一番初めの男の子で御坐いま  
 したから、神様に御参りする爲に参りました)。

五、何故乙女マリアは鳩を捧げましたか。(赤兒が生れましてから、再び御参りせ

する事が出来ましたからです。

六、イエスを拜せんが爲に來た老人は誰れですか。

七、シメオンは其時神様に何んと御祈りを致しましたか。(今彼は救主を見ましたから、此世を去らして下さる様にと祈りました。)

八、如何してシメオンは其赤子が、救主であると云ふ事を知りましたか。(神様の御告げによりまして。)

九、年取ツた婦人は誰れですか。

シメオンの祈りの第一問(路二、二九、)

「主よ、今其言葉に従ひて僕を安全に世をば去らせ給へ。」

第七章 博士等 (馬太二、一—十二)

或る日キリストが御生れになりましたから少したちまして、東の國から博士等はキ

リストを拜さうと思ひまして遙々遠い路を旅立ちてユダヤに参りました。

此博士等は大變立派な着物をきて駱駝に乗ツて今エルサレムに着きました。其時の

ユダヤの王はヘロデと申す老人でエルサレムの御殿に住んで居りました。

博士等は東の方の人々で御坐いましたが、ユダヤの王なるキリストが御生れになつ

た時、めづらしい星が現はれましたので、此人等は其星を見て動きます方にたよつ

て参りました、今ヘロデ王の處に参りユダヤの王とて生れ給へる方は何處に入らッ

しやるでしようかと聞きました。

ヘロデは大變立派な紫の衣を着て金の冠を戴き立派な御殿に住んで居りましたが其

心は賤しう御坐いまして、今博士等の言葉を聞き大變キリストの御生れになつた事

をにくみました。

其時王様は學者と祭司の長とを集めてキリストは何處に御生れになつたかと、聞き  
ました時、ユダヤのベツレヘムと云ふ事がわかりましたから、東方の博士等に



其事を知らせ、いつ星が現はれたかと云ふ事等を尋ねました。博士等はキリストがベツレヘムに、御生れになつたと云ふ事を聞き、急いで又駱駝に乗り、山里なるベツレヘムに参りました。

けれども博士等は、ベツレヘムに参りまして、何處の家にキリストが居らツしやるのかわかりませんで、上を見ました時、今迄博士等を導いた星が丁度キリストのお居でなさる家の上にきら／＼と輝いて居りましたから、博士等は大層喜び静かに内に入りました。其時御母さんのマリアが赤子を抱いて入らしやるのを見て、ひれ伏して其赤子を拜し、駱駝の上に積んで参りました、たからの箱を開きましてゴムと澤山の金を袋に入れたのを捧げました。其ゴムは博士等の國の、ある木から取り、金は近くの河から取りましたので御坐います。博士等は救主なるキリストを拜し、喜んで再び國に歸りました。此度はエルサレムのヘロデ王の處にはよりませんでした。

問一、ヘロデ王の處に参りました人々は誰れですか。

- 二、此博士等は王に何を尋ねましたか。
- 三、博士等はすぐキリストが何處に御生れになつたかと云ふ事がわかりましたか。(すぐには、わかりませんでした、暫くしてわかりました)。
- 四、ヘロデ王は誰れ等を御集めになりましたか。(祭司の長と學者とを御集めになりました)。
- 五、ヘロデ王はキリストの御生れになつた處を、如何して知りましたか。(祭司の長と學者たちに聞いて知りました)。

六、ヘロデは博士等に何んな事を聞きましたか。(いつ星が現はれたかと云ふ事を聞きました、王は、キリストが御生れになつた初めの日に、星が現はれたでしようと思ひましたから、いつキリストが御生れになつたかと云ふ事を知る爲です、博士等はいつキリストが御生れになつたかと云ふ事を語り、王は何處にキリストが御

生れになつたかと云ふ事を博士等に語りました。

七、如何して博士等は、キリストの御家を見付けましたか。(星が其上にとまつて居りましたから)。

八、何を博士等はキリストに捧げましたか。

九、何故彼等はキリストを拜しましたか。(キリストは神の子で入らしやいましたから)。

博士等のよろこび、馬太二、十、

「彼等は此星を見て甚くよろこびたり。」

第八章 旅行 (馬太二、十二—十五)

ある夜ヨセフは夢に天の使が現はれて、ヘロデ王がキリストを殺さうとして居るから起きて、イエスと其母とを連れて、エジプトに逃れよと言ふのを聞きましたから、

急いで起きて仕度を致しました。彼は馬屋から驢馬を曳き出して来て、キリストとマリアとをのせて、直にエジプトの國へ旅立ちました。

マリアは頭から長い布の切を被り、イエスを誰れにも、見へなひ様に、其きれで、包んで抱いて居りました。ヨセフも、マリアも、イエスが御生れになつて、羊牧者

や博士等が拜しに参りました此ベツレヘムを去るのが残り惜しう御座いました。又此村は此人たちの先祖で御坐います、ダビデと云ふ王様が住んで入らつした處で

御坐いますから、尙残り惜しう思ひました。けれども、神様の御告げで御坐いますから、急いで竊に旅立ちました。そして一日一日と熱帯國の方へ近づいて参りました。

砂原ばかりの砂漠を通り、時々岩陰にやすみて、水を呑みました。けれども其處等には清き流れや、緑の樹蔭等はなく、只かわいた砂の上に短かい草位しか御

坐いませんでした。漸くして大變土地が良くて、澤山の穀物等の出来るエジプトの國につきました。エジプトには、ナイルと云ふ河が御坐いまして、土地をよくうる

ほしますから、國中大變富んで居りますが、カナンの地なる彼等の古郷の様に緑の牧場や、美しい花などは咲いて居ない、ひどく暑い國で御坐いました。

此國の人々は色々な獸や、蟲等の像を拜して居りました。ユダヤ人の様に眞の神様を拜まずに、其んな物を、をがんで居りましたから、ヨセフもマリアも大變悲しみまして、眞の神様やエルサレムの御宮の事を思ひ出しましたでしょう。

問一、何故ヨセフは夜中に急に起きて旅立ちましたか。

二、マリアの夫の名は何んと申しますか。

二、何んと云ふ村を去りましたか。

四、何んと云ふ國に參りましたか。

ヨセフに告げし御使の言葉、馬太二、十三、

「起きて、嬰兒と其母とをたづさへエジプトに逃れよ」。

### 第九章 悲しめる母 (馬太二、十六—十八)

ユダヤの王のヘロデは、キリストの御生れになつたと云ふ事を聞き、大變驚き、又博士等から、キリストがユダヤの王に御成りになると云ふ事を聞きまして、大辱怒り、自分の兵卒共をベツレヘムに遣はして、ベツレヘムの、二歳以下の赤子を、皆殺させました。何んと恐ろしいではありませんか。兵隊は劍をぬいて、毎に赤子を殺して歩きました。其刀は赤子の清い血が滴つて居りまして、多くの御母さんたちは、自分等の赤子を失ひましたから大辱悲しみました。兵隊等はベツレヘムの赤子を皆殺しましてから、又其血の刀をさげて、其近所の村々にまで行きまして、そこらの赤子をも殺しました。

御母さんの腕に、何んにも知らずに、無邪氣に眠つて居りました可愛い赤子等は、にくむべきヘロデ王の兵隊の劍の下にたはれました。けれどもキリストは(赤子の

御母さん等は知りませんでした。救主で入らつして、私等人間を罪から救はんに、御自分が御死になられました。其故御母さん等は天國にて再び其子供等が、

キリストに抱かれて居るのを見ましたで御坐いましょう。

問一、初め、兵隊等は何んと云ふ村の赤子等を殺しましたか。

二、誰れが、兵隊を遣しましたか。

三、何故兵隊を遣しましたか。

母のかなしみ。(馬太二、十八)

「ラケル、其子供をなげき、其こどものなきによりて慰を得ず」

第十章 大工 (馬太二、十九—終)

キリストは、熱帯國なるエジプトに、マリアとヨセフと共に入らつして、段々可愛らしく、大きく御成長遊ばしました。

ある夜ヨセフは夢を見まして、其夢の中に、神様からの御使が現はれて、もうヘロデ王は死んだから古郷なるイスラエルの地に行けど御つしやいましたから、ヨセフは驢馬にキリストとマリアとを乗せ、初めエジプトに参りました時のやうに長い旅を始めました。

砂原ばかりの沙漠をぬけて、やがてイスラエルの地に着きましたから、キリストが御生れになつたベツレヘムに参らうと思ひましたがヘロデの悪ひ息子が王様となつて居ると云ふ事を聞きまして、ベツレヘムに参りますとを恐れて居りました。其時また、御使が現はれて、ガリラヤに行けど云ふ御告げを蒙りまして、元、ベツレヘムに参ります前ヨセフもマリアも住んで居りました、ナザレと云ふ小さな村に参りました。

此村の人々は、マリアもヨセフをも知つて居りまして喜びましたけれども、キリストには此度初めて御目にかゝりました。

キリストはベツレヘムの馬小屋の中で御生れになつて以來、貴い救主で入らしや  
 いましたが、殘酷なヘロデ王の劍を逃れる爲に、あらゆる艱難辛苦をなさいました。  
 今はキリストは何んな御家に住んで入らつしやるでしようかしヨセフは大工で御座  
 いましたから、立派な家には決して住んで入らつしやいせんでした。またヨセフ  
 は毎日木を削り、釘を打ち付けたりして居りました。キリストは此内に居て、い  
 つでもマリア又ヨセフの言付けを聞き、何んでも出来る事を爲さいました。けれど  
 もキリストは、貴い神の御子で入らつしやいまして、此世の造主で御坐いました。  
 問一、何故ヨセフはエジプトを去りましたか。

(天の使が現はれてヘロデが死んだと云ふ事を告げましたから、エジプトを去り  
 ました)。

二、何故ヨセフはベツレヘムかエルサレムに住みませんでしたか。(ヨセフはヘロ  
 デの殘酷なるむすこの、アケラオが其處の王となつて居ると云ふ事を聞きましたか

50

三、何んと申します村に住みましたか。

ヨセフの住家。(馬太二、一三三)。

「彼はナザレと云へる村に至りて居れり」。

第十一章 樂しき旅路 (路二、四一—四二)。

ユダヤ(キリストの御生れになつた國)には、大きな御祭が三ツ御坐いました。  
 其大きな御祭の時には、ユダヤ國中の人々がエルサレムの御宮に御詣りをして、  
 捧物を致しまして、大變賑やかで御坐いました。逾越の祝と申しますのは、其内の  
 一ツで御座いまして、一番大きな御祭で御坐いました。熱心な家にては、家中遠い  
 山道も厭はず、エルサレムの御宮に詣りました。  
 キリストも毎年御兩親と一緒に御詣りをなさいました。

時は春で御坐いまして、キリストの住んで入らッしやるナザレの村は、緑の木々や、奇麗な紅の百合や、けし、うこんかう等の花が、咲き亂れて居りまして、大變奇麗で御坐いしました。丁度キリストが十二の年に御なりになりました時、(十二歳に、なりました時、(男子)エルサレムに御参りするの、ユダヤの習いで御坐いしましたから)御両親や近所の人々と一緒に逾越の祝にエルサレムに入らッしやるので、大變よろこんで入らしやいました。

婦人等は皆驢馬に乗り、頭巾を長くかぶつて居ります、男子は皆草鞋をはき、頭巾をかぶつて居ります。着物は、青、赤、白等色々御坐いまして、其上に帯をしめて居ります。其中に小供は只キリストのみで御坐いしました。此一行は小山を越え、川を過ぎて、エルサレムに旅立ちました。

問一、何んと云ふ村から人々は旅立ちましたか。

二、何處へ参るので御坐いしますか。

三、何しに参るので御坐いしますか。

年若き救主 (路二、五二)、

「イエス智慧も齡もいやまさりて神と人とに益々愛せられたり」。

第十一章 賢き幼兒 (路二、四二—五三)、

小山の上に輝ける美しい都をさして今しものぼり行く二人の人が御座いました。誰れでしようか、又何處へ行くのでしようか。

此立派な都は言ふまでもなく、エルサレムで御座います。昇り行く人はヨセフとマリアとで御座います。逾越の祝も過ぎたのに何の爲めに、再びエルサレムの御宮をさして参りましたでしようか。

ヨセフとマリアとはキリストも其道づれの中に入らッしやる事を思ひまして元と参りました道に歸へッて参りまして、一日程参りましてから、親類の人や知人に、キリ

ストが、見えないので、尋ねましたが、誰れも知りませんから、又キリストを尋ねて三日目に漸く御宮でキリストに逢ひました。御宮には大きな堂が御座いました。屋根はシダの木でふき、柱は大理石で出来て居りました。もつと澤山の廣い御部屋が御座いますが、これが一番大きなので御座いました。

此堂の内にヨセフとマリアとは入ッて参りました、其處には何んな人が居ッたでしょうか、高き座には眞白い長い髭の御座います、年取ッたる教師等が居り、其下の方には澤山の青年等が其教を聞いて居りました。

其青年等の中にキリストが入ッしやいまして、其教を聞き、又御尋ねをして入ッしやいしました。側に聞いて居る人々はキリストのかしこい事に驚いて居りました。大變むづかしいえらい問を爲さいましたからです。けれどもキリストは大變御謙遜で入ッして、人から褒められ様とか、人から賢いと思はれ様とか、決して御思ひになりませんでした。此キリストを見まして、マリアの今迄の心配はあどなく

消えて喜び又驚きました。キリストの所に参りまして、ヨセフとマリアとは、大變心配して再び御宮に來た事を申しました。キリストは大變やさしく入ッしやる内にも、王子の様な威嚴をもち給ひて、ごうして此處に留まつて入ッしたかと云ふ事をおッしやいまして、また再びヨセフとマリアと共に、ガリラヤの村里なるナザレに御歸りになりました。

問一、此都は何んと申しますか。

二、其都の内では一番立派な建物は何んで御座いますか。

三、其堂は何んで御座いましたか。(御宮の内の一番大きな堂で人々は其處にて禮拜をいたしたりします)。

四、キリストを尋ねて行く二人の人は誰れですか。

五、大變心配相で御座いますが何故ですか。

六、マリアはキリストに何んと申しましたか。

七、キリストは何んと御答へになりましたか。

マリアに言ひしキリストの答、(路二、四九)、

「何故われをたづぬるか、われはわが父の事をつとむべきを知らざるか」

第十三章 熱心なる説教者 (馬太三、一一七)。

ユダヤの國にヨルダンと申す大きな河が御座いました。険しい山と山との間を流れて、死海と云ふ海に入ります。

其河岸の山の中に、只一人住んで居る人が御座いました、体には駱駝の毛衣を着まして、皮の帶をしめて居ります。晝は野原に、夜は洞穴の中に眠りました、からだは夜のつめたい露にぬれ顔は太陽に焼け髪はぼう／＼として居ります、筋肉は太く、黒く、如何にも逞し相で御座います。今其人の食事をして居るのを見ますと、當前の御飯ではなく、自分で其處等あたりのいなごや野蜜を集めて、其等を食事となし

て居るので御座います。此人は誰れでしょうか。

此人はバプテスマのヨハ子と云ふ人で御座いまして、前に申したザカリアとエリザベツとの間に生まれましたあの赤兒が、こんなに大きくなつたので御座います、ヨハ子は通常の人々の様に温かい家に住み、よい食事を致しませんで、こんな荒野に一人住んで居りました。ヨハ子は決して町にも行かず、時には木の實を食し、かわける時には谷川に下りて水を呑みました。

キリストが私共罪ある人々を御救ひになる爲に御生れになつた事を、人々に知らせる爲、ヨハ子は此處にて毎日御説教を致しました。そして第一に私共は自分が悪い事を致しました事を悔改めねばならぬと云ふ事を人々に申しました。人々は熱心なるヨハ子の説教をき、自分の悪い事を致しましたのを悔改め、ヨハ子よりヨルダン川にて洗禮(悔改めの徴)を受けました。

中には立派な風をした教師等があつて話を聞に参りましても大變ごうまんて、御話



を聞かないので御座いました、ヨハ子は其んな事には頓着なく、熱心に悔改の説教を致しました。

問一、説教者は誰ですか。

二、誰の子供ですか。

三、何處で説教をして居りますか。

四、何の位長く其處に居りましたか。(子供の時から)

五、何んな着物を着て居りましたか。

六、何を食事として居りましたか。

七、其説教の内に何と云ふ言葉を幾度も申しましたか。(悔改と云ふ言葉でした)。

八、其話を聞きに来て居るごうまんな人々はだれですか。

ヨハ子のバリサイ人に言ひし言葉(馬太卅、七)。

「誰が汝等に来らんとする怒をさくべき事を告げしや」。

### 第十四章 聖き鳩

(馬太三十三—三十七。馬可一、九—十一。路、三、二一—二二)。

バプテスマのヨハ子は多くの人が悔改めました時、其徴にすぐ傍なるヨルダン河にて、人々に洗禮を授けました、エルサレムユダヤ又ヨルダン河の四方より、澤山の人々が毎日ヨハ子の所に参りました。此第の人は大概粗末な衣服を着た人々で御坐いました、ヨハ子は人々を河まで連れ行きそれを洗ひ、神様に御祈りを捧げました。ある時やはり多くの人の様に、粗末な風をした謙遜なる人がヨハ子の許に参りました、此れはキリストで御坐いました。

ヨハ子はキリストが自分よりすぐれた貴い方に入らつしやると云ふ事をよく知つて居りましたから、自分こそキリストより洗禮を受くべき者であると申しましたがキリストは多くの人の様にヨハ子より洗禮を御受けになりました。二人は水よりあがりて、御祈りを致しました時、天より神様の御霊が鳩の様にキリストの上に来

りました、そして神様の御聲で、此れはわが心にかなふ愛子なりとおつしやいました、其時ヨハ子は此方は眞に救主なるキリストであると云ふ事がわかり前よりもつと尊敬を以てキリストに事へました。

問一、何んと云ふ河で御坐いますか。

二、説教者は誰ですか。

三、バプテスマのヨハ子は此河に於て人々に何を授けましたか。(洗禮を授けました)。

四、何故人々に洗禮を授けましたか。(悔改めの徴の爲めで御坐います)。

五、イエスがヨハ子の許に参りました時、ヨハ子は何んと申しましたか。

六、神様は天から何んとおつしやいましたか。

キリストに給ひし神の御言葉(馬太二、二)。

「汝はわが愛子、わがよろこぶ所の者なり」。

第十五章 荒野 (馬太二二、馬可一、十二、路四、一一二)。

住む人もなき恐ろしき荒野に只一人熱心に、御祈りをして居る人が御坐います。これはキリストで入らつしやいます。キリストはヨルダンの流れでヨハ子より洗禮を受けて後すぐ神の御靈に導かれて、此淋しい山また山なる、恐ろしい荒野に入らつしやいました、キリストは此處にて悪魔の試みに御遇ひになりました。即ち悪魔はキリストを悪い方に誘はうといたしました。けれどもキリストは固く其試みをはね付け、其れに御勝ちになりました。猿や獅子の吼えるこゑは、夜となく晝となく、近くに聞えて、誠に物凄く處で御坐いました。其處にてキリストは四十日四十夜何にも召力がらず、熱心に神様に御祈りを爲さいました。悪魔は其間キリストを悪の方にくにと誘はうと致しましたが、遂にキリストの御力に負けてしまひました。キリストの上には神様の御助けが御坐いましたから、其長い間も少しももうろずか

わかず、熱心に御祈りを爲さいました。

問一、荒野に御祈りをして入らつしやるはごなたで御坐いますか。

二、幾日間其處に入らつしやいましたか。

三、何かキリストを試みましたか。

四、誰か此荒野にキリストを御導きになりましたか（聖靈で御坐います、それは

丁度キリストの洗禮の時に下りました）

五、何故キリストは悪魔の試みと御たゝかひになりましたか（私共を悪魔の誘

ひより救ふ爲で御坐いました）

キリストのこゝろみ（馬可一、十三）、

「彼四十日野にありて、サタンに試られ、獸と共に居れり。天使これに事へぬ」。

第十六章 羔（約一、二九—三一）

ある日バプテスマのヨハ子はヨルダンの岸邊なる、木蔭に立つて居りました。多くの人々は彼の説教に耳を傾けて居りました。

丁度其時ヨハ子の顔はうれしさに輝きました。ヨハ子は向ふの方よりだん／＼近づ

いて入らつしやるキリストを見ました時、心からうれしく思ひましたからです。

先に水にてキリストに洗禮を授けまして以來ヨハ子はキリストの救主で入らつし

やると云ふ事をよく知つて居りましたから今自分の方に歩いて入らつしやるのを見

ました時、實に喜び皆の人々に向ひ、神の羔を御覽なさいと申しました。

キリストはヨハ子の様な駱駝の毛衣は着て入らつしやいません。只通常の貧しい人

の着る様な衣物をきて入らつしやいました。けれども御かほは他の人々よりも柔し

く貴く御見えになりました。

問一、ヨハ子はキリストの事を何んと申しましたか。

二、キリストを見ました時ヨハ子はよろこびましたか。

三、ヨハ子の住んで居る野原はキリストの嘗て悪魔に試みられなされた荒野と同じで御坐いますか。(違ひます、キリストの入らつしやつた荒野は人は誰も住んで居りません。只恐ろしい獣ばかり住んで居りました。)

人々に向ひて言ひしヨハ子の言葉(約一、二九)。

「世の罪を負ふ神の羔を見よ」

第十七章 救主の家 (約一、三五—四〇)。

いつもの如くヨハ子は荒野にて、二人の弟子に御話を致して居りました時、少し向ふの方にキリストが歩いて入らつしやるのを見て、神の羔を見よと申しました。そこで二人はヨハ子を殘して、キリストの後に隨いて行きましたらキリストはうし

ろをおふりかへりになつて、何か用事があるかと御聞きになりました。二人は師よあなたは何處に御宿りになつて入らつしやいますかと伺ひました。するとキリストは御親切にも二人と一緒に來る様におつしやいました。

二人は共にキリストの、御宿りになつて入らつしやる家に參りまして、色々の貴い御話を伺ひ、夕方になつてから歸りました。此二人の内の一人はアンデレと申します人で御坐いました。さうしても一人の名はわかりません。併し二人共によろこんで家に歸りました。

問一、バプテスマのヨハ子は再びキリストの歩いて入らつしやるのを見まして、弟子に何んと申しましたか。

二、ヨハ子と共に、居りました一人は誰れですか。(一人はアンデレで御坐いました、も一人はわかりませんが、後でキリストの弟子となつたヨハ子であつたかも知れません)。

三、アンデレとヨハチとは兄弟で御坐いましたか。(二人は漁人で御坐いまして、友達で御坐いましたしアンデレにはシモンと云ふ兄弟が御坐いまして、ヨハチにはヤコブと云ふ兄弟が御坐いました)。

四、ヨハチと云ふ人が二人御坐いますが、其區別がわかりますか。(一人はパブテスマのヨハチと云ひ、一人はキリストの弟子のヨハチです)。

五、キリストは二人の弟子にふりかへり、何んとおツしやいましたか。

六、何んと二人は答へましたか。

七、いつ頃キリストは其宿にお着きになりましたか。(午後の四時頃で御坐いました)。

キリストの招き。(約一、三九)。

「來り觀よ」。

### 第十八章 宴會 (約、二、一—十二)。

ガリラヤのナザレの村から少しはなれて、カナと云ふ村が御坐いました。時は春にて小山や牧場には美しい花が咲き、無花果の葉は繁つて居りました。ある日此村にて婚禮が御坐いました。澤山の人々は美しい衣服を着て、其日婚禮のある家の御祝ひに招かれて参りました。イエスとマリアも亦其の祝ひに招かれて入らつして居りました。花嫁、花婿、御客様も共に御馳走を食べ御酒を呑み、御話をして、皆大騒ぎにて賑やかで御坐いました。又其祝ひには其祝ひを司る人が御坐いまして、色々召使の世話や、其總ての御客様の世話をして居りました。大きないくつかの甕は皆からになつて、御酒がなくなりました時、キリストは召使の者に其處に備へてあつた六つの石甕(御飯に付く前御客様が手をすすぎます水甕)に水を満す様におつしやいました、召使はキリストのおつしやる通りに甕に一杯水を入

れました。そこでキリストが又其水を婚禮の祝ひを司つて居る人の處に持つて行け  
 とおつしやいましたから其の様に致しました、そうすると其人はそれがおいしい御  
 酒であるのに驚いて、大概の人は御祝ひの終りにはまずい御酒を出しますが、あなた  
 は終りにおいしい御酒をお出しなさるのですねと花婿に申しました。召使等はキリ  
 ストが水を御酒に御變へになつた事を知つて居ります。又キリストと共に弟子も參  
 つて居りまして、キリストの御偉い事を見ましてキリストを信じました。

問一、何んと云ふ村で御坐いますか。

二、石甕は何んの爲に御坐いましたか。

三、驚かなかつた人は誰れですか。(マリアです)。

四、御祝を司る人は花婿に、何んと申しましたか。

五、キリストは何うして初に水を御酒に變へる奇蹟を爲さひましたでしよう。(キ  
 リストは私共の喜ぶのを見て、共に祝して下さいます徴であります)。

キリストの最初の徴 (約二、十一)。

「此事をイエス、ガリラヤのカナにて爲せるは徴の初にして其榮をあらはせり」

第十九章 市場 (約、二、十三—十七)。

エルサレムの御宮は町よりすつと高く聳えて立派な建物で御坐いました。門を入  
 つて參りますと、廣い御庭が御坐います、そして赤や黄や白や色々の石が庭一  
 面に敷いて御坐います。其御庭から又澤山の石段が御坐いまして、他の一段上の御  
 庭に出られます。けれども其處には只ユダヤ人しか參られませんでした。ほかの人  
 々は下の廣庭まで来て御まゐりを致しました。

此廣庭の周圍にはシダの木の屋根大理石の柱等で、出來て居る立派な家が澤山御坐  
 います。其一つの家の内に羊や牛が入つて居ります。こんな立派な御宮の家の中に  
 牛や羊の居るのは、ほんとうにをかしう御坐います。何の爲めにあるので御坐い

ましようか。其等の獸の側に人が付いて居りまして、他の人々に賣つて居るので御坐います。買ひに参りました人々は價を聞きまして御金を拂ひ、それをいけにへの爲に祭司の處に持つて参ります。牛や羊を賣買する人々で其御庭ががや／＼して居りますから、一段上の御庭で歌つて居ります讚美歌の美しい聲も聞えませんか。又其側に鳩を籠に入れて賣つて居る人も御坐います。

子供を連れた御父さんと御母さんは二羽の鳩を買つて、上の御宮に持つて参ります。ある人は此御庭で御祈りをして居る様ですが、こんな騒ぎの中で何うして静かに、御祈りなご出来ましよう。又ある者は此處に机を出して御金を入れた箱を上に乗せておきます。それは外の國からエルサレムへ御詣りの爲に参りまして御金が違ひますから、其處で御金を換へてもらひます。

其處に色々の其等の賣買をする様を見て入らツしやる方が御坐います。誰れで御坐いまいしようか。其等の賣買の様を御覽になる度に氣持の悪い様な顔をして入らつしやいます。これはキリストで入らつしやいます、遂にキリストは繩で鞭を御作りになつて羊や牛又それに付いて居ります人々を御宮より追ひ出し、御金を換へる者の机を倒し、御金を散らし、鳩を賣る者の處に入らつして此物を取りて行けとおつしいました。キリストと共に御宮に参りました弟子等はキリストがなすつた事を見て驚き敬ひました。

問一、獸を賣つてる御庭は何んと申しますか。(異邦人の庭と申しました、其處にはユダヤ人の外の國の人々も来てよろしう御坐いましたから)。

二、其御庭は何の爲に御坐いましたか。(人々が神様に御祈りをする爲の庭で御坐いました)。

三、人々は何の爲に獸を買ひましたか。(神様に捧げ物として上げる爲に買ひました)。

四、何故其御庭で賣買するはよろしう御坐いませんか。(其御庭は神様に御祈りを

する處で決して外の事をする所では御坐いませんでした。

五、何故人々は御金を換へましたか。

六、キリストは鳩を賣る人に何んとおつしやいましたか。

商人に仰せられしキリストの言葉（約二、十六）。

「わが父の家をあきなひの家とする勿れ」。

第二十章 ひそかなる訪問（約三、一—十八）。

ある夜、ユダヤ人のつかさにてパリサイのニコデモと云ふ人は、ひそかにキリストの家を訪ねました。ニコデモは自分がキリストの家に行つたと云ふ事を人々に知れない様に夜参りました。ニコデモの家は富んで居りましたから、着て居ります衣服は大變立派なので御座います。けれどもキリストの家に参りまして、キリストの側に座りまして、大層丁寧にキリストに向ひ何か尋ねて居ります。キリスト

は王様の様に威嚴が御座いますが、大層やさしくニコデモを自分の兄弟等の様に、深切に御話をしてゐらつしやいます。特別に私共の罪を洗う爲に洗禮を受けなければならぬと云ふ事に付いて御教へになりました。

キリストは其日も一日中、人々に説教をして御教へになりましたが、今又夜で御座いますけれども、ニコデモの爲に色々の御話をしてゐらつしやいます。人々に見付からない様にニコデモは、夜の明けない内に、いとまを告げて其處を去りました。

問一、夜キリストの許に来た人は誰ですか。

二、何故ニコデモはひるキリストの許に参らずに、夜参りましたか。（他の人に見られるのを恥しく思ひましたから）。

ニコデモに告げ給ひしキリストの言葉（約三、十六）。

「それ神は其うみ給へるひとり子を賜ふ程に世の人を愛し給へり、此は凡べて彼



を信する者に亡ぶることなくして永きいのちを受けしめんがためなり」。

第二十一章 井 (約、四、五一四二)

二つの山と山との間にはさまれて、美しい谷が御座いました。唐もろこしや、橄欖樹の繁みは道行く旅人のよき蔭となり、其處等一面に咲いて居ります美しい花は芳ばしき香を送つて居ります。誠に美しい谷間で御座いました。此谷間の少し廣がつた處に小さな村が御座いました。其村を少し離れて木陰に清らかな井が御座いました。此處はサマリアのヌカルと云ふ村で御座います。

今此井の處にキリストは丁度晝頃御出でになりました。キリストは弟子等と共に旅をして入らつしやいましたが、弟子たちは村の方に食物を買ひに参りまして、キリスト御一人此處に休んで入らつしやいました。ユダヤから旅をして入らつしやいましたから、大層御疲れになつて、此井の處に入らつしやいましたが、此井は大

層、ふかくて、つるべも御座いせんから、其水を御飲みになる事も出来ませんでした。

丁度其時一人のサマリアの婦人が桶を持つて、水を汲みに参りました。其女は其處に入らつしやるのがキリストであると云ふ事を少しも知りません。ユダヤ人がサマリア人と着物等が違いますから、キリストがユダヤ人であると云ふ事はわかつて居りました。キリストは一目御覽になつて、此女は行ひのよくない女であると云ふ事が御わかりになりました。キリストは此女によき教を説きさかさうと御思ひになりました。

キリストはサマリアの女に向ひ、水を飲せよとおつしやいました。女は驚いて、如何してあなたはユダヤ人であるのにサマリアの女の私に水を飲せよとおつしやいますかと申しました。何故此女がこんな事を申しましたかと云へばユダヤ人とサマリア人とはいつもつきあひを致しません。道で遇ひましても話も致しませんから今キ

リストが自分に向つて御話をなさつたので、驚いてさう申しました。イエスは尙サ  
マリアの女に向ひ、汝は吾が誰（キリスト）であるかと云ふ事を知らない。吾は汝  
に活ける水を與へる事の出来る者であるとおつしやいました。活ける水とは通常の  
水でなくて、神様の御教へをさしたので御座います。此女は其事がわかりませんか  
ら、又師よ、此井はふかく、又つるべもないのに、如何してあなたは汲む事が、御  
出来になりますかと、尋ねました。キリストはまた此水を飲む者は復濁くが、わが  
與ふる水を飲む者は、決していつまでも濁く事なしとおつしやいました。尙又色々  
の事をキリストは女に御教へになりましたので、此女は大層心を改めまして、キリ  
ストがごなたで入らつしやるかといふことを尋ねましたから、キリストは御自分が  
救主なるキリストであると云ふ事をおつしやいました。女はそれを聞いて尙驚さま  
した。

丁度其時キリストの弟子等は、村よりパンを買つて戻つて参りましたが、キリス  
トが其賤しいサマリアの女と御話をして入らつしやるのを見て驚きました。けれ  
ども弟子等は何んとも申しませんが、自分たちの買つて来た食物を召上る様に申  
しました。併しキリストは我には汝等の知らない食物があるとおつしやいまして、  
それを召上りませんでした。弟子たちは其意味がわかりませんで其食物は何處から  
御もらひになりましたかと聞きました。そこでキリストは神様の御教を人々に教  
へるのがキリストの食物であるとおつしやいました。

其時先の女は水桶を其處におき大急ぎで村に参りまして、井の處にキリストと云  
ふ救主の入らつしやると云ふ事を人々に告げましたから、多くの人々はキリストの  
入らつしやる處に参り、御教へを伺ひまして、キリストを信じ敬ひました。サマリ  
アの人々がキリストに何うか此村に留まつて入らつしやる様にと願ひましたから、  
キリストは二日程其處にとどまつて入らつしやいました。多くの人々はキリストの  
御話を聞き前よりもつと澤山の人がキリストを信じました。キリストはかゝる

何んにも知らない賤しい女でさへも、深切に御教へになりました。二日の後、キリストは外の村へと御旅立ちになりました。

問一、其村は何んと申しますか（サマリアのスカルと云ふ村で御座いました）

二、初めキリストは女に向ひ何んとおつしやいましたか。

三、女は何んと答へましたか。

四、何故ユダヤ人とサマリア人とはつきあひを致しませんでしたか。（ユダヤ人は

サマリア人が自分等と違つた色々な國の人々で御座いましたから嫌ひました）

五、キリストは女に何を興へるとおつしやいましたか。

六、活ける水とは何う云ふ意味ですか。（約七、三七—三九）。

七、終りにキリストは女に御自分は誰であるとおしやいましたか。

サマリアの女に語りしキリストの言葉。（約、四、十三—十四）。

「凡べて此水を飲む者はまた渴かん、されどわが興ふる水を飲む者はかぎりな

く渴く事なし。」

第二十二章 四人の漁人 （馬太、四、十八、馬可、一、十七—廿

一、路加、五、十一—十二）。

山と山との間にガリラヤの湖と云ふのが御坐いました。湖の水は川の様について流れては居りません。風がひごく吹く時は波が立ちますが、ふだんはごく静かで御坐います。此ガリラヤの湖は此方の岸から向ふの岸が見えない位大きな湖で御坐いました。其周が十八里も御坐いましたから歩いて一周するには随分かゝります。小さな舟はいくつも其上を往つたり、來たりして居ります。其内荷物を一つの町から外の町へ運んで居るのもあり、又漁りをして居るのも御坐います。

今此湖のみぎりの岸邊に澤山の群集が立つて居ります。其中にキリストは熱心に、御話をして入らつしやいます。人々は前かき動かす聞いて居ります。其間に段々澤山の人が集つて参りました。キリストの立つて人らつしやる場所さへなくなり

ました。キリストは其時岸邊に二そこの舟のつないであるのを御覽になりました。其中にすなごり人は居りませんでした。少し離れて、向ふの方に其持主なる四人の漁人はあみを洗つて居りました。彼等はよくキリストを知つて、キリストを敬つて居りました。一つの舟の持主はシモン、ペテロとアンデレとで御坐いました。一つの舟の方はヤコブとヨハネとで御坐いました。キリストはシモンを呼び、其舟に御のりになりました。復其舟の中から人々に御話を爲さいました。アンデレも共に其舟にのつて聞いて居りました。人々は岸からキリストの御話をよく聞く事が出来ました。キリストは御話を終りなさいましたから、シモンにおきへ出てすなごれとおつしやいました。シモンは師よ、私共は夜中此處で網を下しましたが、何んにも取れませんでした。併しあなたの仰せで御坐いますから、今復網を下しましうと言ひながら、湖の中に網を下しました。それから不思議なことには其網を上げ様と致しますと澤山の魚がとれまして、二人丈では上げる事が出来ませんので、ヤ

コブとヨハネとに手傳つてもらひまして、漸く上げました、そして魚は二そこの舟に一杯御坐いました。又四人はそんなに澤山魚が取れたので驚きました。シモンはイエスの足下に伏して師よ私共の處を去つて下さい、私共は罪人で御坐いますからと申しました。それは今キリストの御偉い事を見まして、今迄自分共のした悪い事を後悔いたしましたので御坐います。キリストは深切に懼る、勿れ汝今より人を獲べしとおつしやいました。人を獲べしと云ふ意味は、神様の事を人々に説教し、人々の汚れて居ります靈を救ふと云ふ事です。

問一、此湖の名は何んど曰ひますか。

二、其二そこの舟は誰等ので御坐いますか。

三、誰の舟の内キリストは説教を爲さいましたか。

四、キリストは誰に網を下す様にとおつしやいましたか。

五、何故漁師等は網を下してもだめだと思ひましたか。

六、シモンはキリストの命に従ひましたか。

七、魚の澤山獲れたのを見て、シモンはキリストの足下にひれ伏し何んと言ひましたか。

八、キリストは其時何んとおつしやいましたか。

九、人を獲るとは何んな意味で御坐いますか。(人々を教へて、人々のたましひを救ふことで御坐います)。

ペテロの言葉。(路五、八)。

「我れを離りたまへ、われは罪人なり」。

第二十三章 病める人 (馬太九、二―九、馬可、二、一―十三、路加五、十七―二十七)。

ガリラヤの湖の邊には、幾つかの村が御坐います。其中の一つのカペナウンと云ふ村に、前の四人の漁夫は住で居ります。イエスも再び此處に入らつして居りました。

人々は皆キリストの御話を聞き度と思つて居りました。其故キリストがある家にとまつて入らつしやると云ふ事を聞きまして、澤山の人々は集まつて参りました。其中には學者とパリサイの人も居ります。此人たちはキリストの御話の内に何か悪い事でも見付けて悪口を言はうと思つて聞きに来て居りました。其澤山の人々の中に立つて、キリストは御話をして入らつしやいました時ある一人の中風を病んで居る人は、床のまゝ、四人の友に昇がれて其家に参りました。けれどももう此人たちが入る場所がないので、如何し様かと思つて困つて居りました。其人たちはキリストを信じ、きつとキリストが其病人をなほして下さるであらうと、確く信じて、此處に来たので御坐います。此人々は再び其病人を連れて、家へも歸られず、そうかといつて、キリストの御話が終つて人々の立ち去るまで、待つても居られませぬので、遂に其病人を家根の上に昇ぎ上げて其屋根板や瓦を取り、其屋根に穴をあけ、網で其床を結び付けてキリストの足下に其病人を吊り下しました。

キリストは御自分の御話が妨げらるゝのを御怒りになりましたでしようか。キリストは其人々の大變信仰の厚いのを御覽になりまして、其病人に向ひ汝の罪赦されたりとおつしやいまして、御深切な言葉を以て御慰めになりました、傍に聞いて居りました學者やパリサイの人々は心の中でキリストを嘲り、悪い事を思つて居ると云ふことを、キリストは御わかりになり、其人々に向ひ御戒めなさいました。そしてキリストが病人に向ひ、床をとり汝の家に歸れとおつしやいました時、其病人は起きて歩くことが出来ました。人々はおどろき恐れて、キリストをほめたへました。キリストの御力の大なることを知りました。又四人の人々はキリストの御恵を深く感謝いたしました。

- 問一、湖水の邊の何んと云ふ村で御坐いますか。
- 二、其病人は何んと云ふ病氣で御坐いましたか。
- 三、其村の人々の外に誰が来て居りましたか。

- 四、キリストは其病人に慰めの爲に何んとおつしやいましたか。
  - 五、彼に何んと言つて御なほしになりましたか。
  - 六、キリストは四人の友達を何んと御思ひになりましたか。(信仰の厚き者である)。
  - 七、如何して私共は其病人は神様の子供であると云ふことがわかりますか。(此人は自分の罪の赦されんことを願つて居りましたから)。
- 病の人に言ひしキリストの言葉(馬太九、二)。
- 「子よ必安かれ汝の罪赦されたり」。

第二十四章 友なき人 (約五、一一一六)。

エルサレムの羊の門の近くにベテスダと云ふ池が御座いました。其傍に五つの家が御座いました。其内には澤山の跛者とか、盲人とか、又は病人とかさういふものは

かり臥して居りました。此等の人は此處に居りまして、池の水の動くのを待つて居ります。それは水の動きますとすぐ池に入った者はどんな病氣でもなほりましたからです。こんな處に毎日くねて居るのは、大變退屈で御座いますが、多くは友達等が来て慰めて居ります。

其内一人の老人は友もなく一人淋しく床に臥して居ります。此人は卅八年間病んで居りました。ほんとうにかわい相で御座います。助けて水に入らせる友もなく如何して此池の中に入ることが出来ましょうか。

丁度其日は安息日で、エルサレムの御宮からは人々の歌ふ讚美歌の聲も聞えます。此人は誰も連れて行く人が御座いませんから行くとは出来ませんでした。丁度其日キリストは其池の傍に来て入らっしゃいました。此憐れなる人を御覽になりました。すぐ此人の友もなく、又長い間病んで居ると云ふことが御わかりになりました。キリストは此人になほりたいと思ふやと御尋ねになりました、其時此老人は自分の長

い間病んで居る事や友のないことなど悲しい話をキリストに致しました。其時キリストは此人に床をとり上げて歩めとおつしやいました。此人は忽ちなほりまして、キリストの仰せられし如く床をとり上げ、力と嬉さに満ちて人々の中を歩み去りました。人々はこれを見て喜んだでしょうか。

否此日は安息日であるからと申して大變怒りました。そして其の老人に誰が床を取り上げてあゆめと言つたのかと聞きました。けれども其の人はあれはキリストで入らっしゃると云ふことを知りませんでしたからそれを申しませんでした。其後御宮にてキリストは此人に御遇ひになりましたとき、これからは決して悪事を爲さない様に其人を御戒めなさいました。老人は自分の病氣のなほつた御禮の爲めに御宮へ参り神様に感謝いたしましたので御座いました。其の時始めて其方がキリストで入らっしゃると云ふことがわかりましたから、嬉しさのあまり人々に其事を申しました。人々はかへつて反對にキリストをにくみ、キリストを殺さうといたしまし

た。

問一、此池は何んと申しますか。

二、何故澤山の病人は此池の傍に居りますか。

三、其老人は幾年の間病氣でしたか。

四、キリストは一番初め此人になんと御聞きになりましたか。

五、其時老人は何んと申しましたか。

六、キリストは何んと御命令になりましたか。

七、何故人々は怒りましたか。

八、御宮にてキリストは此老人に何んとおつしやいましたか。

御宮にて老人に言ひ給ひしキリストの言葉。(約五、十四)。

「祝よ、汝すでに癒えたり、復罪を犯すこと勿れ、恐らくは前に勝れる災汝にかゝらん」。

第廿五章 山上の祈り (馬太三、十三—十九。路六、十二—)。

暗夜は更けて静かに疲かれたる働人も皆床について、羊の群も眠つて居りました。此山の中には只時々、梟の鳴く聲のみで、外には何んの音もなく、しんとして居りました。

けれどもよく耳を澄して聞きますと、人の聲の様なものか聞えて居ります。此山中に夜更けて誰が居るので御座いませう。其のこゑは誰か神様に御祈りをして入らつしやるこゑで御座います。それはキリストの御聲で御座います。キリストは大變熱心に御祈りをして入らつしやいます。御顔は御疲れになつて入らつしやる様で御座いますが、御祈りをながくつゞけて入らつしやいました。だんく夜が明けてから弟子たちを御呼びになりました。十二人の人を御選びになり、其等の人々をキリストの使徒(弟子のこゑ)と御名付けになりました。其中に漁夫で御座いました。



ペテロ、ヤコブ、ヨハ子も居ります。聖書の中に此人たちのかいた書が御座います。其等の人々はキリストを愛しました。但一人イスカリオテのユダと云ふのがキリストを愛さない者で御座いました。キリストは此十二人の弟子等に共に山を御下りになつて野原に往き給ひました。其處には多くの人々が集まつて、キリストのおいでになるのを待つて居りました。其處にてキリストは目の見えない者、啞、中風等病氣の人々を御なほしになりました。其後再びキリストは山に御昇りになりました。それは誰も居らない處で御祈りをせん爲でありました。けれども弟子たちは來り又多くの人々は御話を聞かん爲に參りましたから、其處にてキリストは御説教をなさいまして人々を祝福なさいました。

問一、漁夫の兄弟の名は何んと申しますか。(ペテロとアンデレ)

二、他の漁夫の兄弟は何んと申しますか。(ヤコブとヨハ子とで御座います)。

三、幾人の使徒を御選びになりましたか。

四、其中の一人の悪人は誰ですか。

五、聖書の中にある書をかきました三人の使徒は誰で御座いますか。

山の上にてキリストのなされた説教の最初の言葉(馬太十、三)。

「心の貧しき者はさいはひなり天國は其人のものなればなり」。

第廿六章 鬼につかれし人 (馬太八、廿八—終)

(馬可四、三四—終、五、一一—二一、路加八、廿二—四〇)。

ガリラヤの湖には靜かに夕日影がさして居ります。キリストは御話を聞かん爲めに集まつた澤山の人々を教へ終つて、その人々を皆家に御かへしになりました。人々はキリストを離れて行のをいやりましたけれども、もう夕方御座いましたから御話を御やめになりまして、十二人の弟子と共に其の湖を渡つて向ふの岸に往かんために、弟子と共に舟に御乗りになつて漕ぎ出で給うたとき、今迄靜で御坐

いました湖に大波が立ち風がひごくなりました。其れ故弟子たちはキリストを見ますと、キリストは舟の舳の方にて眠つてゐらつしやいました。弟子徒は其の暴風を恐れてキリストを起しました。其の時キリストは起きて風に静かになる様、又水の波立たない様にとおつしやいました。そこで忽ち風も湖も元の様に静になりました。弟子等はキリストの御力におごろきました。されどキリストは弟子たちにもつと固き信仰を持たなければならぬこと、又縦ひキリストが眠つて居らつしやいましても暴風を恐れてはならないといふことを仰せられました。

其の間に舟は向ふの岸にいつてガダラ人の住んで居る土地につきました。それからキリストが舟からお上りになりましたとき、一人の鬼につかれた人が破れた着物をきて髪をぼうくと振り亂してキリストの方に駈けて参りました。此人は家に住まぬ墓場にねたり起きたりして其處等をさまよつて居りました。人々が鎖や何かでか

たくつないでおきましても、それをうちきつて其處等をあばれまはりました。人々は皆おそれてそばにさへ参りません。

此時キリストは此人から悪鬼の放れ去る様に御命じになりました。悪鬼は此時キリストの前にひざまづいて、ごうか自分を遠くへ追ひやらす向かふの牧場に遊んで居る冢の中に入ることゝ願ひましたから、キリストは其様に御命じになりましたので、悪鬼は其人を離れて其の冢の群に入りました。冢の群にはかに騒ぎ出しまして崖より落ちて湖に溺れて皆死にました。これまで鬼につかれて居つた人は通常の人の様になほつて深くキリストに感謝致しました。

冢を飼つて居つた人はおごろいて村に走り歸つて、其の事を人々に告げましたので、人々が出てきてキリストに此地を御去りになる様に願ひました。そこでキリストは弟子と共に舟にて此地を御去りになりました。

問一、何んと云ふ湖で御坐いますか。

- 二、キリストは湖と風とに何んとおつしやいましたか。
  - 三、キリストが上陸なさいました處は何んと申す處で御坐いましたか。
  - 四、其處に御上りになりました時何んな者が出て参りましたか。
  - 五、其人は何處に住んで居りましたか。
  - 六、其惡鬼はキリストに何んと申しましたか。
  - 七、人々に誰がキリストのなすつた事を村に走り歸つて告げましたか。
- 鬼につかれし人にキリストの言ひ給ひし言葉（馬可五、十九）。
- 「汝の家に歸り親屬に行きて、主の汝になし、大なる事と、汝を恤みし事を告げよ」。

第二十七章 牢獄

（馬太十四、一—十三。馬可六、十四—三〇）

山と山との間の森の中に、一寸見ましても陰氣な、何んもなく恐ろしいやうな御

城が聳えて居ります。高い塔や石の壁で圍んで御坐いまして、大變堅固なやうに見えます。其御城から少し離れて、向ふの方に大きな湖が御坐います。此湖は死海と申しまして大變物凄陰氣な鹹からい湖で御坐いました。ガリラヤの、湖の様に、美しく奇麗では御坐いません。

誰がこんな恐ろしい、海に近い御城に住んで居るので御坐いましょうか。ヘロデと云ふガリラヤの王が澤山の兵隊をつれて、戰に参ります途中で、暫くの間此城に留まつて居るので御坐います。多くの兵隊は此處より出たり入つたりして居ります、戰の準備をして居る様に見えますが今日は戰はなさず、立派な宴會をひらいて居るので御坐います。此日は丁度ヘロデ王の誕生日で御坐いましたから、多くの大臣や、ガリラヤの貴い人々を招きまして、祝宴を開いて居ります。王は其等の貴い人たちの中に坐り、紫の立派な着物をきて居ります。多くの人々が酒を呑み御馳走になつて居ります時、一人のちいさい女の子が入つて参りました。其子は親王の

様で御坐いますが、何處となく卑しくて高尚なところが御坐いません。これはヘロデの奥さんの連れ子でサロメと申すもので御坐います。彼は其處へ出て多くの人々の前へで踊りました。彼は十歳位でありながら、こんな集りの中で平氣で踊りました。王は勿論多くの人々も大層喜んで居る様で御坐います。踊りがすみましてから、王はサロメに何んでも欲しいものがあるならそれを褒美にやると申しました。そこで女の子は御母さんの處にいつて何にしましょうかと聞きました。そしてから暫くしてかへつて参りまして、バプテスマのヨハ子の頭が欲しいと申しました。何んと恐ろしい願では御坐いませんか。王はそれを聞きまして困つた様な顔をしてサロメを見、又多くの人々を見てゐましたが、約束した事で御坐いますから致方なく、一人の兵士を呼び、バプテスマのヨハ子の首を持つて來る様に命じました。

一人の兵士は命を受けて、御城のすつと下の牢屋の中に下りて参りました。其の中にはバプテスマのヨハ子が鎖につながられ足かせをかけられて、其顔色青く、其強さうな身體もやせて、其恐ろしい眞暗な牢屋の中に坐つて居りました。兵士は彼の首を切り、盆にのせてサロメの處に持つて参りました。少女は平氣で（むしろ喜んで）それを受取り、立派な貴夫人の居ります部屋に急いで参りました。其貴夫人はサロメの母ヘロデの夫人でヘロデヤと申すもので御座います。ヘルデヤは實に残酷な婦人で御坐いました、豫言者なるヨハ子を怨んで其の様な恐ろしい事を致したので御坐います。今其首を見て、虎が肉を見て喜ぶ様によるこんで居ります。

ヨハ子の弟子は其事を聞いて大層悲み、其死體を取つて参りまして墓にうめて、それからキリストに其事を告げる爲に参りました。

問一、其王は誰ですか。(ヘロデと申します)。

ベツレヘムの赤兒を殺したヘロデとは違ひます。これは其息子のアンテバスヘロデと云ふ人で御座います。

二、何處の王で御坐いましたか。(ガリラヤの王)。

三、ほんとうの王で御坐いましたか。(否大名の様な者で御坐いましたけれども、王と云つて居りました)。

四、此城にいつも住んで居りましたか。(此人はいつもはゲネザレの湖に近いテベリアと云ふ邑の城に住んで居ります。今はアラビヤの王と戦ふ爲に此處に參つて居ります)。

五、何故宴會をひらきましたか。(彼の誕生日でしたから)。

六、少女の名は何んと申しますか。(サロメと申しましてヘロデの子でなく、ヘロデヤの連子で御坐います)。

七、其娘の御母さんはだれですか。(ヘロデアと云ふ大變悪い夫人でした。此ヘロ

デアはヘロデの兄の妻で御坐いましたが、ヘロデの兄の所を去つてヘロデの所に參りました)。

八、牢に入つてる人は誰ですか。

九、誰が牢に入れましたか。(悪いヘロデアの爲に入れられました)。

十、何故サロメはヨハ子の首をのぞみましたか。

十一、誰がバプテスマのヨハ子を葬りましたか。

十二、其後で弟子たちは誰の所へ參りましたか。

殉教者の榮。(約、黙、廿、四)。

「われ多くの位を見しに其上に坐する者あり、彼等審判の權を與へられ、又イエスの證及神の道の爲に首斬られたる者の靈魂を見たり、皆生きてキリストと共に千年の間王となれり」。

## 第廿八章 湖邊のゆふけ (路九、十一、十八、約六、一一、一五)。

(馬太十四、十三、廿二、馬可六、三〇、四四)。

ガリラヤの湖の岸にはいくつも邑が御坐います。ヘロデ王の住んで居る立派なテベリアの都も其岸にあるので御坐います。

ヘロデよりもすつとえらい王様が一ツのカペナウンと云ふ邑に住んでゐらつしやいました。それはキリストで御坐います。けれどもキリストはヘロデの様に立派な宮殿ではなく、ごく貧しい家に住み貧しい人の着る様な衣服をきてゐらつしやいました。

キリストを離れてよそへ教へに参つた十二人の弟子たちは二人づゝ手に杖を持つて今キリストの許に歸つて参りました。弟子たちは長い旅をして参りました。總て自分たちの致して参りましたことをキリストに御話しやうと思ひまして、キリスト

の周りにぐるりと坐りました。けれども外の人々は其家に入つて、キリストの御話を聞かうと致しますので、弟子たちとキリストとは食事さへする事が出来ませんでした。

それゆゑ弟子たちはキリストに従ひまして、外に出で、舟に乗つて、漕ぎ出しました。湖を横切らずに岸に沿うて舟を漕ぎ段々参りまして、ベテサイダの附近で舟から上りました。其處等邊には多くの家もなく、只翠の山々の間に小さな五六軒の家があるばかりで御坐いました。此處にて弟子たちはキリストと共に楽しく御話を致しました。けれども岸邊には多くの人々がキリストを待つて居ります。此人々はキリストが舟に御乗りになるのを見て岸を歩いて此處へ参つたので御坐います。弟子等は其等の澤山の人々を見て、驚きました。が、キリストは神の子でゐらつしやいましたから、よく其の事を御存じで少しも驚きになりません。人々を親切にして病氣の人々を御なほしになり、又色々の御教をなさいました。多くの人々は

キリストからよい御教を聞き、心はよくなつて居りますが、食事を致しませんから大層疲れて居ります。弟子等はキリストに夕方になりましたから、此等の人々を歸らせて、近い町々に行き食事をさせる様にと申しましたが、キリストは弟子に此處にて多くの人々に、食事をさせる様にとおつしやいました。弟子の一人なるアンデレは驚きまして、此處には唯一人の男の子が五ツのパンと二ツの魚を持つてゐるばかりで御坐います、それを何うして此多くの人々に、分け與へる事が出来ましようかと申しました。キリストは其食物を持つて来る様に御命じになり、其食物を取り御祈りをなさいまして、其パンをわつて、弟子たちに渡し、人々を五十人づゝの組々にして坐らせ、それを分け與へよとおつしやいました。

弟子等はキリストのおつしやる通りに致しました處、其等の食物は其多くの五千人の人々に十分で御坐いました。各々の人々は喜んで家路につきました。それから弟子たちはキリストの御言付けによつて、其残りのパンを集め歩きました處、十二

の籠に一ぱい御坐いました。多くの入々は勿論弟子たちはキリストの御偉いことに驚いて、尙々キリストを深く信じました。

問一、何んと云ふ邑からキリストは舟に御乗りになりましたか。(カペナウンから)。

二、何處に往らつしやいましたか。(ベテサイダの附近へ往らつしやいました)。

三、夕方キリストは何んの事に付いて弟子と御話なさいましたか。

四、誰が男の子の事をキリストに話しましたか。

五、幾人の人にキリストは食物を與へ給ひましたか。

蹟を見し人々の言葉(約六、十四)。

「此は誠に世に来るべき預言者なり」。

第廿九章 湖上の御あゆみ (馬太十四、二四—卅四)

馬可六、四七—五三、約六、十六—廿二。

十二人の弟子等は舟にのつて元きたカペナウンに歸らうとして居ります。彼等はキリストと共に居りまして、キリストを離れるのをいやに思ひましたが、自分等ばかり舟でカペナウンに歸るやうにとキリストの仰せで御坐いますから、其御言付け通り舟に乗つて漕ぎ出しました。

キリストは尙多くの人々の中に立つてゐらつしやいます。其間に日も暮れましたから、キリストは人々に家に歸るやうにおつしやいまして、御自分は只一人で小山の頂上に昇つてゐらつしやいました。其處に御坐りになつて、熱心な御祈りを爲さいました。キリストは夜中までもずつと靜かに御祈りをしてゐらつしやいました。それから御祈りを終りになり目を上げてはるか向ふ

の方の湖の中に小さな舟が暴風に吹き流され、波に揺られて今にも覆りさうになつて居るのを御覽になりました。誰もそんな夜中に向ふの方の舟を見ることは出来ません。唯キリストのみはよくそれを御覽になることが御出来になりました。憐れな弟子等は力の限り漕ぎましたが恐ろしい風をしづめることは出来ず、今にも溺れさうになつて居りました。

やがて弟子等は水の上に黒い人影のやうな者の歩くのを見て、驚き恐れて大きな聲を立てました。それを怪物か何かと思ひましたから恐れたので御坐います。けれどもキリストは舟の近くに往らつしやいまして、「我なり懼る、勿れ」とおつしやいました時、疲れはて、居た弟子等は何んなに喜んで御坐いましょう。其中のペテロはキリストであること云ふことを見まして、舟から出で、主よ私をあなたの處に往かせて下さいと申しました。そこでキリストは來れとおつしやいましたから、水の上を歩いて丁度キリストの近くまで参りましたが、ペテロは自分の周りに水の



荒れて居るのを見て、それに恐れて歩みかゝりまして、大きな聲で「主よ私を助け給へ」と申しました。キリストは御手を伸してペテロに御向ひなされて「信仰うすき者よ」とおつしやいました。そしてキリストはペテロと共に舟に御のりになりました。舟の中の十一人は何んなに喜んでキリストの周りに集つたでしよう。彼等は眞にキリストを神の子と言つて拜しました。それからすぐ暴風は静まり舟は目的の地に着きました。其故弟子等はキリストと共にカペナウンの家に歸りました。

問一、何處から弟子等は舟を漕ぎ出しましたか。(ペテロサイダの附近の野から)。

二、何處へ行かうとして居りましたか。(カペナウンに歸らうとして居りました)。

三、キリストは何のくらの水の上を御歩きになりましたか。(二里半位御歩になりました)。

四、舟の近くに往らつしやいました時、キリストは弟子等に向ひ何んとおつし

やいましたか。

五、誰が舟を出てキリストの許に來てもよいかと伺いましたか。

六、ペテロはしづみかゝりました時何んと申しましたか。

七、キリストは其時ペテロに向ひ何んとおつしやいましたか。

八、弟子等はキリストを何んと申しましたか。

暴風の時キリストが弟子等に言ひ給ひし言葉。(馬可六、五一)。

心安かれ、我なり懼るゝ勿れ。

第三十章 我まゝなる人々 (約六、二二—終)。

湖近くの山々に朝日の光は輝き渡り、青々として居ります。芝草は、昨日あたり澤山の人々に踏みにじられた様になつて居ります。

昨日此處で教へを聞いた多くの人は、日の暮れ方にキリストのみ此地に留まり

給ひ弟子等は唯一つあつた舟に乗つて、カペナウンに渡つたと云ふことを知つて居りますから、キリストがそこらにゐらつしやらないかと思ひまして尋ねがして居ります。けれど其處等にキリストの形も見えませんが。丁度其時テベリアの方から、一そこの舟が参りまして、キリストが御祈りをして人々にパンを御興へになつた處に着きました。多くの人々はキリストも弟子等も其處に居りませんから、其舟にのつてカペナウンに参りました。

彼等は程なくキリストに尋ね逢ひまして、師よいつ此處に來らつしやいましたかと聞きました。其時キリストは此等の人々に向つて、汝等が我を尋ねるは徴を見たかではなく、パンを食べて飽たからであらうとおつしやいました。(それは汝等は我を眞に信じて居らないと云ふ意味で御座います)。

それからキリストは其處の會堂で多くの人々に神様の事に付いて、色々な事を御教へになりました。我は天より下つたパンであるとおつしやいました。中には其話を

聞いて、キリストを嘲るがうまんなる人々も澤山御座いました。また一度はキリストを信じた者も怒つて其處を出て参りました。

其時キリストは十二の弟子を顧み給うて、汝等も我を去るつもりであるかと思ひました。其時其中の一人なるペテロは、主よかぎりなき生を持つてゐらつしやるあなたを離れて誰の處へ行かれましよう、我等はあなたを活る神の子キリストであると思ひて居りますと申しました。されどキリストは汝等のうち一人は悪魔なりとおつしやいました。それは十二人の中のイスカリオテのユダと申すものが悪魔で御座いまして、キリストはそれをよく知つてゐらつたから、さうおつしやつたので御座います。

問一、何故人々は昨日教を受けた處にキリストを尋ねて参りましたか。(人々は昨日弟子たちのみ舟にのつて、キリストは其處に残つてゐらつたのを知つて居りましたから、まだ其處にゐらつしやるかと思つて参りました)。

- 二、何故人々はキリストを尋ねましたか。
- 三、キリストは再び此人々を見て何んとおつしやいましたか。
- 四、會堂でキリストは御自分の事を何んとおつしやいましたか。(我は天より下つたパンである、わが與ふるパンは我が肉である、わが肉は眞の食物であると御仰いました)。
- 五、がうまんなユダヤ人は何んと申しましたか。(彼が父母は我等が知てゐるのに、何んで彼は天から下つたといふのであらうか、何うして其肉を我等に與へて、食させることが出來やうかと言ひました)。
- 六、キリストは弟子等に向つて、何んと御聞きになりましたか。(汝等も亦去るつもりであるかと御仰いました)。
- 七、誰がそれに答へましたか。
- 八、何んと言ひましたか。

九、イスカリオテのユダをさしてキリストは何んと御仰いましたか。

ペテロの答(約六、六八、六九)。

「主よ、吾等は誰れに行かんや、かぎりなき命の言葉をもてる者は汝なり、又我等信じて知る、汝は活ける神の子キリストなり」。

第三十一章 榮光の峰 (馬太十七、二—十四、馬可九、二—)。

ある夜高き山の頂にキリストは其弟子のペテロとヤコブ、其兄弟のヨハ子とを伴て、御上りになりました。

其處にてキリストは暗の中にて、熱心に御祈りをしてゐらつしやいます。御祈りをしてゐらつやる間に、だんぐと其御顔は日光のやうに輝き、遂に着てゐらつしやる着物までも、雪のやうに白く闇の中に美しく輝きました。やがて預言者のモーセとエリヤとは其處に現はれ、天使のやうに輝いてキリストと御話を致しました。

をして其話しはキリストが間もなくエルサレムで此世を御去りになることに付いて  
 いありました。三人の弟子等は山の頂で、丁度キリストの間近に眠つて居りまし  
 たが、急に目をさまして、あたりまばゆく、輝いて居る三人の人を見ました  
 時、何んなに驚いたで御坐いましょう。弟子たちは此方々が其處を御去りになる  
 のを望みませんから、遂にペテロは、師よ、我等に一つはあなたのため、一つ  
 はモトセのため、一つはエリヤのために、此處に三つの家を造らせたまへ」と申し  
 ました。其時天より美しい雲が現はれて三人の方々を蔽ひ、其中から神様の御こゑ  
 で、之は我が愛子である、これに聴くがよいと云ふのがきこゑました。三人の弟  
 子は懼れて地にひれ伏しました。暫して目を上げました時にはキリストの姿は  
 元のとほりになつて、弟子たちの傍に立つてゐらつしやいました。もう輝いたかけ  
 は何處にも見えませんでした。キリストは唯一人其處にゐらつしやいました。夜が  
 明けて弟子等は彼等の愛するキリストと共に山を下りました。其時キリストは御

自分が死から御甦りになるまで、其事を人に告げないやうにと仰せられました。弟  
 子たちは其後決して其貴きことを忘れませんでした。

問一、何んといふ山でしたか。(ガリラヤの山でした)。

二、二人の輝いた人々は誰々ですか。

三、三人の弟子は誰で御坐いますか。

四、誰がキリストに話しましたか。

五、何んと申しましたか。

六、雲の中より誰の御こゑが御坐いましたか。

七、何んと仰せられましたか。

八、キリストは弟子に何んと御仰いましたか。

キリストに言ひしペテロの言葉(路九、卅三)。

「師よ、此處に居るはよし、我等に三つの庵を造らしめよ、一つは汝の爲、一つはモ

「セの爲、一つはエリヤの爲にせん」。

第三十二章 憐れなる男の子(馬太十七、十四—二二。馬可九、十四—卅。路加九、三七、—四三)

夜が明けて、山の麓に多くの人々が集まつて大變騒がしく何か言ひ争つて居ります。す、キリストの弟子が九人其人込の真中に立つて困つたやうな風をして居ります。大變傲慢な學者たちは弟子たちの傍に立つて、彼等を嘲りいやしんで居ります。尙よく見ますと、一人の憐れな男の子が地上にたはれて手足をのばし、泡をふいて死人のやうになつて居ります。其子の御父さんはキリストの弟子に、其子の病氣をなほしてくれるやうにと願ひましたが、弟子たちはなほすことが出来ませんでした。それがため學者たちは弟子たちを罵つて居るので御坐います。

其時丁度キリストは三人の弟子と共に山を下つて入らつしやいました。人々はそれを見てキリストの方に走つて参りました。キリストは人々の方に御出でになつて學者

と弟子たちとは何を論じて居るのかと御聞きになりました。其人々がまだ何とも答へないうちに男の子の御父さんはキリストの前に跪き自分の悲みを話し子供が病氣であつて弟子たちの處へ連れて來てもなほすことが出来なかつたと云ふことを告げて、それから何うかキリストに自分の子供の病氣をなほして下さるやうにと願ひました。キリストは其話を御聞きになつて、涙を流し嗚呼信仰のない曲つた世であると御歎きになりました。そして父親に其子供を連れて來るやうにと御仰いました。それから其子供をキリストの、前に連れて参りましたら、彼は復キリストの前で、泡を吹いて、死人のやうにたはれました。キリストは憐れみを以てそれを御覽遊ばして、悪鬼に其子より出でよと仰せられました。そうすると悪鬼は其子より出でました。併し子供はまだ地の上にたはれて居るので、人々はもう死んだのかと思ひました。「そこでキリストはおかどみになつて、其子供の手を御取りになりました。其子供の病氣はなほりました。其時キリストは父親に其子供を御渡しになりました。人々は

其不思議な徴を見て驚きました。

それからキリストは家に御歸りになりましたから九人の弟子たちが我等は如何して病氣を癒すことが出来なかつたのでしようかと伺ひました時、キリストはそれは信仰がないからであると御仰いました。信仰がなくては、何も出来ないと言ふことを御教へになりました。

問一、其男の子は何したので御坐ますか。

二、其傲慢なる人々は誰ですか。

三、九人の人々は誰ですか。

四、何故九人の弟子たちは愧ぢて居りますか。

五、九人の弟子たちが其男の子を癒さうとしました時、キリストは何處にいらつしやいましたか。

六、キリストは涙を流して、何んと御歎きになりましたか。

七、キリストは悪鬼に何んと御仰いましたか。

八、九人の弟子等は家に歸つて何を聞きましたか。

九、キリストは何んと御答へになりましたか。

キリストに願ひし父親の言葉(馬太九、二四)。

「主よ、われ信ず、わが信なきを助け給へ」。

第三十三章 集金者 (馬太十七、廿四—終)。

キリストはカペナウンで、ペテロの家に宿つてゐらつしやいました。ペテロの家はキリストが弟子と與に度々舟に御乗りになりましたガリラヤの湖のすぐ附近に御座いました、小さな粗末な平家で御座いました。其處ら邊の家は大變廣く庇が出て居りましたから、入口に立つて居りまして、十分雨や日光をよけることが出来ます。一日ペテロが其處に立つて居りました時、二三人の人々は其前を通りかゝりまして、

御金の袋をさげたまへ、ペテロに話しかけました。其人等はエルサレムの御宮の納金のために、人々から御金を集めて歩いて居るので御座います。今ペテロに申しますには汝等の師（キリストをさして申すのであります）は納金を御出しにならぬでしようか、そこでペテロはさうではありませんと答へ、家に入つてキリストに伺ひました。キリストは湖に行つては釣を垂れて、初につれた魚の口を開かば、その中に一つの金が入つて居るであらうからそれを納めよと御仰いました。やがてペテロは釣竿をかついで行つて釣に餌を付けて、湖に釣を垂れました。そしてキリストの御仰つた通りに、初めにつれた魚の口に、金貨が一つあつたのでそれを持ち歸つて集金者に納めました。

問一、家の前に立つてゐる一人は誰ですか。

二、何處の邑で御座いましたか。

三、何のために集金者は御金を集めて居りますか。（エルサレムの御宮へ納める

ためでした）。

四、其家の中にどなたがゐらつしやいましたか。

五、集金者はペテロに何んと申しましたか。

六、ペテロは何んと答へましたか。

七、ペテロはキリストに何を相談いたしましたか。

八、如何してキリストはペテロの家におらつしやいましたか。（彼の家に宿つてゐらつしやいました）。

九、キリストはペテロに何のやうなことを御言付けになりましたか。

十、キリストは此世におらつした時富んでゐらつしやいましたか。（此世におらつしやるときは、御自分の物は何も持たず、大變貧しい人のやうに見えました）。

キリストの大なる恵み。（哥林、後、八、九）。

「汝等我等の主イエスキリストのめぐみを知る、彼は富める者なりしが、汝等の爲に

貧しき者となれり、是れ汝等が彼の貧しきにありて、富める者とならん爲なり」。

第三十四章 忙しき婦人 (路十、三八、一終)。

キリストはあちらこちらの村里を御巡りになりまして、ペタニアに御出でになつた時、マルタと云ふ婦人がキリストを其家に迎へ入れました。ペタニアはエルサレムのすぐ近くにあつて、誠に美しい山里で御座いました。

マルタの妹にマリアと云ふ娘が御座いました。マルタは饗應のようじが澤山御座いまして、心がおちついて居りませんでした。妹のマリアは靜かにキリストの御側に座つて、キリストから御教を熱心に聞いて居りました。マルタはそれを見て、腹立ち紛れにキリストの近くにまゐりまして、主よ、マリアは私一人を働かして何んとも思ひません、何うか私を助けるやうに御仰つて下さいましたと申しました。キリストはそれを御聞きになつて、マルタよ、マルタよ、汝は餘り澤山の事をしよう

として心を勞して居るけれど、大切の事をして、居らない、マリアは其一番大切なことをして居ると御仰いました。それはマリアはキリストのよい教を聞いて居りますのに、マルタは聞かずに、別の事にあくせく致して居りましたからで御座います。

問一、何んと云ふ村で御坐いましたか。(ペタニア)。

二、何んと云ふ山の上にペタニアは御座いましたか。(橄欖山の上に御座いました)。

三、其附近に何んと云ふ都が御坐いましたか。(エルサレム)。

四、キリストの御側に坐つて、御話を聞いて居るのは誰ですか。

五、誰が怒つて、キリストの所に參つて話しましたか。

六、マルタはマリアのことに付いて、何んと申しましたか。

七、キリストは何んと御仰いましたか。



八、何故マルタはそんなにいそがしう御座いましたか。(マルタは御馳走をキリストと其弟子の爲めに致しますので、忙しう御座いましたけれども、キリストは御馳走を御望みになりませんでした。それよりか人々がキリストの御話を聞くことを御望みになりました)。

マルタに言ひ給ひしキリストの言葉。(路十、四二)。

「マルタよ、マルタよ、汝多くの事により、思ひわづらひて心づかひせり、然れどなくて叶ふまじき事は一つなり、マリアは既によき方をえらびたり、これは彼より取るべからざるものなり」。

第三十五章 感謝にみちたるめしひ (約九、一一終)。

一人のめしひはシロアムの池の傍に立つて居ります。丁度上の高い岩から水が滴り落ちて、此池に入るので御坐いますから、其水は大變奇麗な清い水で御坐います。

た。

此人の目には泥が一つばいぬつて御坐います。彼は今腰をかゝめて、池の水でその目を洗つて居ります。洗ひましたときに今まで閉ぢ付いて居つた目は急にあいて、彼は外の光に對して自分でも驚いて居るやうで御坐います。此人はこじきで生れながらの盲目で御坐いました。ある安息日にキリストは此人を見て、先づつばで泥をどいて、それを彼の目にぬり付けて御遣しになり、それからシロアムの池に行つて洗へと御仰いました。其故彼は此處に来て洗ひましたところ、自分の目が急に見えるやうになりましたから、大變驚きました。彼が其池を去つて、道を行きまじたとき、今迄彼がめくらであつたのを知つて居る人々は、互にさゝやいて言ひ争ひました。それは同じ人だとか似た人だとか申しました。其時彼は私は其こじきでありますと言つて、キリストが其目を御なほし下さつた話を話しました。人々はキリストは何處にあらつしやるかと聞きました。彼は知らないと言ひましたから、人

々はエルサレムの御宮の大廣間に、パリサイの人の澤山居る所へ連れて参りました。パリサイの人々も彼に同じ事を探ねて、キリストが安息日に（休日）此人を御なほしになつたと云ふことを聞き、大變怒りまして、キリストを罪人であると申しました。それから又此人の兩親を呼んで尋ねましたが、兩親はパリサイの人を恐れて何んにも知らないと申しました。尙パリサイの人は色々のことを其いやされた人に問ひました。汝は汝をいやした人を何んと思うて居るかとの間に答へて、此人は彼は預言者であると申しました。併しパリサイの人々は復キリストを罪人であると申しました。そこで彼は答へて、今まで生れ付きの盲目をいやしたものは其人である若し其人が神様から出て居らなかつたなら、何にもすることは出来なかつたであらうと申しました。パリサイの人々は、それを聞いて大變怒り、彼を宮から追ひ出しました。彼は宮の外に出ましたとき、キリストに遇ひました。キリストは汝は神の子を信ずるかと彼に御聞きになりましたら、彼は神の子は誰れであらうと云ふやい

かと尋ねました。そこでキリストは答へて、それは我であると御仰いました。彼は遂に我信ずと言つてキリストを拜しました。

問一、何んと云ふ池で御坐いますか。（シロアム）。

二、エルサレムにはまだ外に池が御坐いますか。（ベテスマと云ふもつと大きな池が御坐います。）

三、誰が泥をめしひにぬりましたか。

四、如何して泥をときましたか。

五、御宮にての裁判官は誰ですか。（サンヒードリンと云ひ、ユダヤ人の七〇人の議員でした。）

六、如何してパリサイの人は（ユダヤ人と同じ）此人を怒りましたか。（盲目の乞食がキリストに癒されたからです、また安息日に癒すと云ふのは悪いと申して居ります。）

七、後から入つて来た二人の老年の男と女とは誰で御坐いますか。  
 八、何んな問を此人々にたづねましたか（初めに此は汝等の息子かとたづねました）。

九、彼等は答へましたか。（さうですと申しました）。

十、此人々は何を知らないと申しましたか。

十一、何故答へませんでしたか（キリストがおいやしになつたと云ふ事を知つて居りましたが、それを云ふ事を恐れました。併し其むすこはまことの事を申しました）。

十二、何んな罪をむすこは受けましたか。（一日の間彼を宮の外へ追ひ出し、又人々に外で口をきく事を許しませんでした。又彼の近くへよる事さへも許しませんでした。けれども御宮に来る事は許しました）。

十三、キリストに逢つた時、キリストは此人に何んと御仰ひましたか。

十四、此いやされし人は神の子供の一人であるを御思ひになりますか。（此人はさうで御坐います）。

キリスト癒されし人に逢ひし時の言葉、（約、九、三五—三八）。

「汝神の子を信するか、主よ彼をして我が信すべき者は誰なるか、汝すでに彼を見る汝どものいふ者は彼なり、主よ我信す」。

第三十六章 九人の恩知らず（路、十七、十一—十九）。

キリストは十二人の弟子と共に、エルサレムに往き給はんためにガリラヤ、サマリヤのうちを通つて、ある村里にお入りになりました。其時十人の癩病人は、向の方から聲を上げて、キリストに憐れみを求めました。其人々の皮膚は通常の人のやうでない、黒く汚れたやうになつて居りました。大きな聲で、師イエスよ、吾等を憐れみ給へと、如何にも悲しさに呼びました。キリストは此様を御覽になりま

して、祭司の所に行きて見せよと、彼等に御命じになりました、此人々はキリストの仰せに従ひ、祭司の所に行く道で、其癩病はすつかり癒りました其内の一人は自分の病氣の癒つたのを見まして直にキリストの許に歸つて来て大きなこゑで、神様をおがめ、キリストの足許にひれ伏し、キリストを拜して御禮を申しました。其人はサマリヤの人で御坐いましたが、キリストはこれを御覽になりました、御驚きになりました。何故なれば、十人のいやされた者のうちで唯一人しか、キリストの許にきて感謝いたしませんで、外の九人は何んの御禮も言はず、歸つてもまゐりませんでしたからで御坐います。キリストに清められた外の九人は何處にゐるかど御聞きになりましたが、此人は答へませんでした。又キリストは其人に向ひ、汝は救はれたのである、心を安くして行けと御仰いました。其人は感謝して自分の家に歸りました。

問一、キリストは何んといふ村に御入りになりましたか。(誰も知りませんが、エ

ルサレムから離れた村でしたでしょう)。

二、十人の人は何んで御坐いましたか。

三、何故此十人の人はキリストや弟子の立ちてゐらつしやる處からずつと離れて、向ふの方に立つて居りましたか。(癩病人は人にさはり、又御宮や會堂に行く事を許されて居りませんでした)。

四、此等の十人は何んど申しましたか。

五、キリストは何んな命令を御興へになりましたか。

六、何處に此十人の人々は行かうとして居りますか。(祭司の住んで居る十三の町の何れかに行かうとして居ります。(約廿一、十三—十九)。

七、何故キリストは癩病人に、祭司の所に行くやうにと御仰いましたか。癩病人が癒りました時、捧げ物上げるのは祭司で御坐いましたから。(利未記十四)。

八、一人の癒された者がキリストの足許にひれふしました時、キリストは何ん

な事を御尋ねになりましたか。

九、其一人は何の國の人で御坐いましたか。(其人はサマリアの人で、ユダヤ人では御坐いませんでした)。

十、終りにキリストは何んと御仰いましたか。

癩病人に言ひしキリストの言葉(路十七、十七—十八)。

「清められし者は十人にあらずや、其九人は何處にありや、此異邦人の外に、神に榮をさせんとて、歸り來る者非ざるか」。

第三十七章 熱心なる乞食

(馬太廿、二九—終、馬可十、四六—終、路十八、卅五—終)。

ヨルダンの河の岸に沿うて、棕櫚の列樹が御坐いました。其列樹のすぐ近くに、小山が御坐いまして、其上にエリコと云ふ邑が御坐いました。キリストは澤山の人々に圍まれて、弟子と共に並木を出で、エリコの方に入らうとしてゐらつしやい

ました。テマイと云ふ人の子のバルテロマイと云ふ盲人は邑の入口の道の上に坐つて居りましたが、澤山の人々のこゑや、足音を聞き何事かある人が尋ねまして、キリストが御通りになつて居らつしやると云ふ事がわかりましたので、顔に希望の色を現し大きなこゑで、ダビデの子イエスさま私を恤み給へと申しました。先に立ちて來た者どもは、靜まれと申しましたが、盲人は尙々大きな聲で、キリストに恤を乞ひました。キリストはそれを御聞きになつて、ある人に其めくらを連れて來るやうに御仰いました。命せられた人は盲人の所に行つてイエスが汝を呼び給うたと申しました。そこで盲人は急いで上衣をぬいでキリストの許に走つて參りました。キリストは此人を見て、汝は我に何を願ふのであるかやと御聞きになりました。其時其人は目が見えるやうに成り度う御座いますと申しました。キリストは御手を其人の上に御按きになつて、汝の信仰が汝を救うたと御仰りまし

附いて邑に入りました。多くの人々も、キリストが其めくらを御なほしになつたことを讚美いたしました。

問一、何んと云ふ河で御座いましたか。

二、其すぐ近くに何んと云ふ邑が御座いましたか。

三、盲人の名は何んと申しますか。

四、如何して澤山の人々は集まつて來たので御座いますか。

五、其めくらは何んと言つて呼ばはりましたか。

六、使ひの人は其人に何んと申しましたか。

七、キリストは彼に何んと御聞きになりましたか。

八、何んと彼は答へましたか。

九、彼を御いやしになつた時、キリストは何んと御仰いましたか。

十、どちらがキリストをよく知つて居つたで御座いまいしょうか、エルサレムの

めくら、で御座いまいしょうか、エリコの方で御座いまいしょうか。(エリコの方で御座いました。彼はキリストがダビデの子であると云ふことを知つて居りましたが、他の方は彼が神の子であると云ふことを知りませんでした。一人の方は大きなこゑで呼ばはつて自分の信仰を表はし、他の者はイエスが救主であることを確く信ずると言つて、信仰を表はしました)。

十一、二人のいやされ方は大變違があります。(一人は大きな聲を立て、呼ばはつていやされ一人は何も言はずしていやされ、一人は觸つていやされ、又一人は泥を付けていやされました)。

キリストとバルテロマイとの話(路十八、四一—四二)。

「汝われに何をせられんと願ふや、主よ見えなん事を願ふ、見る事を受よ、汝の信汝をすくへり」。

第三十八章 幸なる税吏 (路加十九、一一一)

イエスはエリコに入り道を通つてゐらつしやる時、澤山の人々はなほついて参りました。其中にみつぎとりの長で、ザアカイと云ふ富みたる人が御坐りました。此人は今キリストが何のやうな方でゐらつしやるか、見ようと思ひましても、自分の身の丈が低くて、如何しても見ることが出来ませんので、すつと其列の前に駆けていつて、道の傍の大きな桑の木に昇り、イエスの御通りになるのを待つて居りました。群集は段々と近きまして遂に其桑の木の下に参りました。キリストは丁度其桑の木の下にゐらつしやいました時、木の上を御覽なさいまして、ザアカイよ、急ぎ下れ、吾れ今日必ず汝の家に宿らんと仰せられました。ザアカイは大變よろこびまして、すぐ木から下りて、キリストを自分の家に迎へ入れました。そうしてザアカイは自分の持物の半分を貧しい人々に施し、又自分が人を認へて人から取つた御金

は四倍にして返すと云ふ事をキリストに約束致しました。大勢の人々はこれを見てザアカイをうらやみ、キリストは罪ある人の所に往つて、其客とお成りになつたと申しました。キリストはザアカイの罪を悔いたのを御聞きになつて、今日彼の家が救はるゝを得たと仰せられました。

問一、其棕櫚で圍まれた邑は何んど云ひましたか。

二、脊の低い人は誰ですか。

三、其人の職業は何んですか。(税を取る人で御坐いました。其人を税吏といひローマの爲に御金を人々から取りましたから、ユダヤ人に大層嫌はれて居りました)。

四、何の木に上りましたか。

五、キリストは其人を見て、何んど御仰いましたか。

六、キリストが其人の家に入り給うたのを見て、人々は何んど申しましたか。

七、此人がキリストに約束した二つの事は何んど御坐いますか。

八、キリストは此人に何んと御仰いましたか。

九、何故キリストはザアカイをアブラハムの子であると御仰いましたか。(何故なれば彼はキリストを信じ、そしてアブラハムは總て信する者の父であつたからで御坐います)。

ザアカイに語りしキリストの言葉、(路十九、九)。

「今日此家救はるゝことを得たり、そは此人もアブラハムの子なればなり、それ人の子(キリスト)は失ひし物を尋ねて、救はん爲に來れり」。

第二十九章 悲しめる姉妹 (約十一、十八—四六)。

イエスは弟子たちと共に橄欖山の附近に、緑りの列樹で蔽はれた美しいベタニアの村に入らつしやいました。其處はマリアとマルタと其兄弟のラザロとが住んで居る村で御坐いました。キリストは度々此村に入らつした事が御坐います。マリアたち

の兄弟のラザロが死にましたので、二人は大變歎いて居ります。

今キリストが村の入口の處に入らつした時、マルタは出で、迎へました。けれどもマリアは家に留まつて居りました。マルタは大變悲しみながらキリストに向ひ、主よ、あなたが此處にゐらつしやいましたならば、私の兄弟は死ななかつたでせう、併し私は今にても神様はあなたの御求めになるものは何でも與へ給ふことを知つて居りますと申しました。キリストはマルタを慰めて汝の兄弟は甦るのであらうと仰せられました。マルタはキリストが神の子でゐらつしやる事を信じて居りました。キリストと御話し、マルタはマリアを呼びに家に戻りました。其間イエスは弟子と共に木蔭に休んでゐらつしやいました。

マリアはマルタからキリストが自分を呼んでゐらつしやることを聞いて、直ちに悔みに來て居る多くの人々と、又マルタと共にキリストのゐらつしやる處に參りましてキリストを見其足下に伏し、主よ若しあなたが此處にお居でゐあつた



なら、私の兄弟は死ななかつたので御坐いますのにと申して、歎き悲しみますのをキリストは御覽になつて、御憐みになりました。キリストは人々に向ひ汝等は何處にラザロを置いたのかと御聞きになつたので、人々はキリストをラザロの墓に導きました。其途で人々はキリストが涙を御流しになるのを見て、キリストが何んなに深くラザロを御愛しになつたのであらうと申しました。そしてキリストは聽て墓に入らつしやいました。墓は洞穴で御坐いまして其口の處に大きな石がおいで御坐いました。そこでキリストが其石を除けよと御命じになりました時にマルタは、主よラザロは最早臭う御坐います、死んでから四日経ちましたからと言つて拒みました。けれどもキリストはマルタに向つて、汝もし信せば神の榮を見るであらうと曰ひ給ひました。それから天を御眺めになつて父よあなたは既に我が願を聽き給ひました。有り難う御坐いますと曰ひ給ひ、また大きな御こゑで、ラザロよ出でよと仰せられました。其の時にラザロは手足を布にて縛られ、顔は手拭で

包まれて入口の處に出で、立ちました。イエスは人々に其布をどく様に御命じになつて、それをどかせ給ひました。ラザロは再び死よりよみがへつて、日の光を見、主イエスと其姉妹を見ることが出来ました。マリアと共に參りましたエダヤ人は此事を見て皆イエスを信じました。けれども其中には此事をパリサイの人に行つて告げた者が御坐います。

問一、何んと云ふ山で御坐いましたか。

二、何んと云ふ村が近くに御坐いましたか。

三、イエスの許に最初に來た婦人はだれで御坐いますか。

四、キリストに何んと申しましたか。

五、キリストは彼の婦人を慰めて、何んと仰せられましたか。

六、何故またマルタは家に歸りましたか。

七、イエスが涙を御流しになつたのを人々は何んと思ひましたか。

八、最初に墓に入らつしてキリストは人々に何んと御命じになりましたか。

九、誰がそれを拒みましたか。又何故ですか。

十、イエスは死人に向ひ何んと御仰いましたか。

十一、イエスは終りに人々に何んと御命じになりましたか。

十二、ラザロは死んでから幾日経つてゐましたか。

イエスとマルタとの話(約十一、二三—二五)。

「汝の兄弟は甦るべし。」

彼は終りの日の甦るべき時に甦らん事を知るなり。

第四十章 眞心ある婦人 (馬太、廿六、六—十四、馬可、十九、三—十)

ラザロの甦るの後、キリストは弟子たちと共に静かな山里に少しの間ユダヤ人を

のがれて、隠れてゐらつしやいました。いく日かの後、キリストは其山里を去つて

エルサレムに御旅立ちになりました。其途中で、緑樹の繁つて居る、美しいベタ

ニヤの村に御よりになり、前にキリストが癩病を御癒しになつた、シモンの家に御

宿りになりました。其日は丁度逾越の祝の六日前で御坐いまして、多くの人はエ

ルサレムの宮に参りました。イエスは其夜シモンの家にて、素晴らしい饗應を受け給

ひ、多くの客と共に食に御付きになりました。其内には近ごろキリストが御甦りに

なつたラザロも居りました。人々は皆ラザロを見度と思つて居りました。それは一

度死んで復甦りましたからで御坐います。ラザロの姉妹のマルタは其席にて、客を

もてなして居りました。澤山の人々は家の周りに集まりまして、ラザロを見て色々

の噂をしながら不思議さうにキリストの方を眺めて居ります。

其群の中には傲慢なパリサイの人々も居りまして、キリストを殺さうと思つて居

りました。皆食に付いて居ります時、マルタの妹のマリアは價の高いナルダの香油

の入つて居る壘を持つて来て、キリストの頭と足に其の香膏を塗り、自分の頭の髪を以て、其足を拭ひました。其よい香は部屋中に満ち渡りました。弟子の一人で御坐いまして、悪人なるイスカリオテのユダはそれを見て、そんなことをするよりも此香膏の價の銀三百を以て、貧者に施した方がよいと申しました。それはほんとうに貧者を憐んで申したのでは御坐いません。そこでキリストは彼に向ひ、マリヤに付いて何も云はないよう、又貧者はいつも、汝等と共にあれども、われはいつも汝等と共にあるものでないと仰せられました。それはキリストがすぐ十字架に御つきになつて、此世を御去りになることを御仰つたので御坐います。けれどもユダはこれを聞いても、尙キリストをうらざりしようと思ふ賤しい心をいたいて居りました。

問一、橄欖山の近くに、何んと云ふ村が御坐いましたか。

二、何處で靈應を開きましたか。

三、其食事に來り居る近頃遊つた人は誰で御坐いますか。

四、誰が客に給仕して居りますか。

五、誰がキリストに、香膏を注ぎましたか。

六、何んの香膏を注ぎましたか。(ナルダの香膏)。

七、何位の價で御坐いますか。(我國の百圓位)。

八、誰がマリヤに向つて反對しましたか。

九、何んと申しましたか。

十、其時キリストは何んと仰せられましたか。

十一、マリヤはキリストが間もなく執へられ、殺され給ふであらうと思ふことを知つて居りましたか。(多分知つて居りました)。

十二、香膏を注がれたは何曜日ですか。(土曜日です)。

十三、キリストは何日の後に殺され給ひましたか(六日の後の金曜日)。

マリヤに付いて仰せられしキリストの言葉。(約十二、七一八)。  
「彼に契る勿れ、わが葬の日のためにこれを蓄へたり、まづしき者は常に汝等と共にあれど、我は常に汝等と共にあらず」。

第四十一章 宮詣 (馬太、廿二、一―十七、馬可、九、二―十四、路、十九、二九―四六、約、十二、一―終。)

イエスは弟子と共に撒撻山の上にあるベテバゲと云ふ、ベテレアの近くの村に入らつしやいましてエルサレムの宮に入らつしやる御積りで御坐いました。丁度エルサレムの近くにいらつしやいました時二人の弟子に向ひ、汝等向ふの村に行くと繋いである驢馬と其子に逢ふであらう、それを解いて我に引き來れ、若し汝等に向つて何んとか云ふ者があつたら、主の御用であると言へど御言付けになりました。二人の弟子は急いで向ふの村に參りますと丁度其村の入口の處に、二匹の驢馬が居りました。そこでキリストの仰せられた通りに其二匹の驢馬を解いて連れて來うと

致しましたら、持主は何故にそれを解くかと聞きましたので、主の御用であると申しますと直に承知致しました。其故弟子たちは驢馬の子に自分たちの着物をかけて、キリストの處に引いて參りました。そしてキリストはそれに御乗りになりました。多くの人々はキリストの後に從いて來て、自分たちの着物を道に敷き、又棕櫚の葉を取つて道に敷き、又其處等に撒き散らしました。そして大きなこゑで、キリストを讚美し、ダビデの子ホザナよ、主の名によつて來る者は福である、至たかき處に、ホザナよ、と呼ばりました。(ホザナよとは救ひ給へと云ふ事で御坐います)。  
道中澤山の人々は集まつてキリストに從ひ、キリストを王様のやうにしてその榮を讚美致しました。驢馬の子は此迄何も荷を負うた事もないので御坐いましたから、静々とキリストを乗せて小さい丘を下り、エルサレムの宮の建つて居る向方の山近くに參りました。其時キリストはエルサレムの宮に向つて涙を流し、エルサレムの宮が近ひ内に敵の爲に圍まれ、こはさるゝであらうといふことを話して、御歎

きになりました。エルサレムに御入りになつた時、其都の人々は騒ぎ立ちて、あれは誰であらうしやるかと聞きました。イエスに従いて行つた人々は、これはガリラヤのナザレから御出になつた預言者イエスであると申しました。やがてキリストは御宮に御入りになつて石段を上り、其處の御庭に賣買して居る者を追ひ出し、りやようがへする者の臺や、鳩を賣る者の椅子を倒し、彼等に向つて、我が家は祈りの家と稱へらるべしとしるされてあるのに、汝等はこれを盜賊の巢として仕舞つたと曰ひ給ひました。イエスは曩に人々を教へる事を御始めになります時に、此宮でなさいしましたのと同じことを、今此世を御去りにならんとする時に復なさいました。めくらや、跛の者が宮に入つて、キリストのゐらつしやる處に來ましたので、イエスは此等の人々を皆御癒しになりました。又御宮にて多くの子供等はイエスに向ひ、大きなこゑで、ダビデの子、ホザナよと讚美致しました。學者や、祭司の長たちは顔をしかめて、キリストを讚美しないようにと申しました。キリストは此

處にて再び御話を爲さいました。其時キリストは神様の御子さまでゐらつして、此世の光であること、キリストを信する者は決してつまづいて暗の中を歩くことはないと云ふことを御話しになりました。多くの人は皆キリストを信じました。此話が終りましたから、もう日が暮れましたから、十二の弟子と共にベタニアの村に行き、其夜は其處にて御どまりになりました。問一、何處の村に驢馬がつかないで御坐いましたか。(多分ベテバダの村で御坐いましょう)。

- 二、弟子がろばをどく時持主は何んと申しましたか。
- 三、弟子たちは何んと答へましたか。
- 四、キリストがろばにのつて、道を御進みになる時、人々は何んと申して呼ばはりましたか。

五、何故キリストはエルサレムの都を見て御なげきになりましたか。

- 六、都の人々はキリストが御入りになつた時何んと言つて聞きましたか。
- 七、人々は何んど答へましたか。
- 八、キリストは宮の中に賣買して居る人々に向ひ、何んど御仰いましたか。
- 九、子供たちは御宮にて何んといつて呼びましたか。
- 十、ホザナとは如何いふ意味ですか。(私共を救つて下さいと云ふことで御坐います)。

十一、キリストは何んな御話をなさいましたか。

十二、何曜日(日曜日)にキリストはエルサレムに御入りになりましたか。(日曜日を復活前日と申します)。

エルサレムを見て、仰せられしキリストの言葉。(路、十九、四二)。

「若し汝だにも今此汝の日に於て、汝の平安に關れる事を知らば幸なるに、今汝の目に隠れたり」。

第四十二章 貧しき寡婦(馬可、十二、四一—終、同、十三、全体)。

イエスは弟子と共にエルサレムの宮にて、終日教へ終つて丁度御宮の十一の賽銭箱の置いて、御坐います處に向つて、其處に来る人々を御覽になつてゐらつしやいました。(其賽銭を以て御宮に捧げる物や、又其外の御宮に必要な物を買ふのであります)多くの富める人々は賽銭の箱に近づき、澤山の御金を投げ入れました。彼等の着物には總があつて、又リボンなどもつけて御坐いました。彼等が歩きます時には、總の付いた着物は長くすそを引いて居りました。キリストは此富んでる人たちの有り餘る中から、いくらか御金を賽銭箱に入れるのを見て、縦ひ其額が多くても餘り御よるこびになりませんでした。けれども其處に一人誠に憐れな様子をした寡婦が僅か四厘ほどの御金を賽銭箱に投げ入れるのを御覽になつて、ほんとうに喜んで御ほめになりました。何故と申しますと、此貧しいやもめは自分の持つて居り

ます有つ丈の御金を皆此箱に入れたからで御坐います。此やもめは貴いキリストが自分の爲した行を見て、喜んで御ほめになつたことなど少しも知ず、又そんなことは思ひもありませんでした。

キリストは其弟子たちを呼び集めて、彼貧しい寡婦は凡べての富める人々よりも多くの御金を賽銭箱に投げ入れたのである、それは他の人々は自分の富の餘りを入れたのに此婦人は貧しい所から、自分の總べての持物を入れたからであると仰せられました。

イエスが御宮に御居でになります時、一人の弟子が御宮の立派な石をキリストに指して、大層それをほめました。キリストはそれに付いて少しも御喜びにならず、其石も今にいつかくづされる、時が来ると云ふことを仰せられました。

それからすぐ後に橄欖山に御登りになり、エルサレムの御宮に向つて、坐つてゐらつしやいました。其時弟子のペテロとヤコブとヨハネとアンデレとは靜かにキリ

ストに向ひ、いつ御宮がくづされて、其石さへもこはされるときが来るのでありま  
すかと伺ひました。そこでキリストはいつ其時が来るかと云ふことを明かに御仰  
いませんでしたが、御自分もろすぐ、此世を御去りになること、弟子等がキリス  
トを信じて、如何なる苦しむ事にも堪へねばならぬこと、又キリストはいつか雲  
の内に再び御現はれになると云ふことを御話しになりました。  
問一、何處にキリストはゐらつしやいましたか。(エルサレムの宮の婦人の庭にゐ  
らつしやいました)。

- 二、箱は何んの爲めに御坐いましたか。
- 三、何れ丈寡婦は御金を投げ入れましたか。
- 四、何曜日キリストは御宮を御去りになりましたか。(火曜日で御坐います)。
- 五、キリストは御宮の石に付いて何を御しやいましたか。
- 六、四人の弟子等は橄欖山にてキリストに何を聞きましたか。

七、キリストは何んと仰せられましたか。(エルサレムは此時から四十年の後に亡ぼされました)。

寡婦に付いてキリストの仰せられし言葉、(馬太十二、四四)。

「彼等皆其餘れる所を以て入れ、此婦は乏しき所より其すべての所有即ち全業を盡く入れたればや」。

第四十三章 反逆者 (馬太廿六、一一五、十四、十六、馬可十、四、一一、十二、十一、路廿二、一一七)。

逾越の祝の日が近づきましましてから、祭司の長や學者等は如何してキリストを殺さうかと思つて、其時を窺つて居りました。イエスの十二人の弟子の中イエスカサオテのユダは夜中に橄欖山を下つて、エルサレムの都に參りました。ユダは其時何うして人に知られないように、此都に來たのでしようか。ユダの顔は恐ろしくさも悪人のように見え、又其心の中には何か悪い考へをもつて居るよう御坐います。

彼はほんどうにキリストを祭司の長や學者たちの手に渡して、殺させると云ふ恐ろしい考を以て此處に參りました、彼は今祭司の長の家に入りました。初め祭司の長や學者たちは、キリストの弟子の一人が如何して此夜中に自分の家に来たかと思つて驚きましたけれども、ユダが自分の考を話した時、大層喜びユダに銀卅を其報としてやると云ふことを約束致しました。ユダは御金のために今迄自分が恩になつたキリストを殺さうとして居るので御坐います。約束を致しまして何知らぬ顔で、再び橄欖山に還つて、キリストや其弟子等と共に居りました。外の弟子たちはキリストがすぐ此世を御去りになると云ふことを聞いて、大層悲しんで居りましたから、自分も如何にも悲し相な顔をして居りました。弟子たちは今ユダが何處に往つて來たかと云ふことを知りませんでした、キリストは其事をよく御存じてゐらつしやいました。キリストは私共の心がよく御わかりになりました。問一、一人で夜中に都に行つた人は誰で御坐いますか。



二、何處へ行きましたか。(祭司の長のカヤバの家)。  
 三、何故夜中に行きましたか。(一つの理由は祭司の長は夜しか家に居りません。ひるは御宮に居りますから)。

四、ユダが家に入りました時まで祭司の長や學者たちは、何を話して居りましたか。(如何してキリストを殺さうかと話して居りました)。

五、ユダが其人々に何を話したとき其等の人は喜びましたか。

六、何をユダに彼等は何をユダに與ふることを約束しましたか。

七、何か此時ユダの心に入つて居りましたか。(悪魔で御坐います)。

八、何曜日ユダは祭司の長の所に行きましたか。(多分水曜日御坐います)

ユダ(路廿二、三)。

「借てサタン十二の弟子なるイスカリオテと稱ふるユダに入りぬ」。

第四十四章 逾越の祝の備(馬太廿六、十七、十九、馬可十四)。

逾越の節の羊を殺し、これを犠牲とする日が來ました時、キリストは弟子のペテロとヨハチとに祝の準備をする様に御命じになりました。そこで二人は何處に用意を致しましたようかとキリストに伺ひますとキリストはエルサレムの都に下り行かば手に水瓶を持つてゐる人に逢ふであらうから、其人の後に付いて其家に入り其家の主人に我等の師が弟子たちと共に逾越の祝を爲すべき客座敷は何處にあるかといへ、さうすれば主人は大なる二階の座敷を示せるであらうから、其處に念を備へよと仰せられました。それから二人はエルサレムの都に行きますと、キリストの仰せになつた通り、水瓶を持つた人に逢ひました。そこで其人の後に付いて其家に入り其家の主人に、キリストの御仰つたことを申しましたら、主人は二階のテンプルなどのおいてある、大きな立派な部屋に二人を連れて行きました。二人はや

がて其處から町に行つて、小羊を求めこれを御宮に持つて行つて、祭司に渡しました。祭司は其小羊を銅の祭壇の上にて殺し、犠牲として神に捧げ、其死んだ羊をまた二人の所に持つて参りました。其日銅の祭壇の上には、澤山の小羊がさゞげられました。

逾越の節の起りは、昔エジプトにイスラエル人(ユダヤ人のこと)が居りました時、神さまがエジプト人に罰を御降しになつて、其長子を残らず御殺しになりました。けれども、イスラエル人をば御救ひになりました。其日イスラエル人は神様の命によつて小羊を殺し、其血を門口に塗つておきました。天使はそれを見て、イスラエル人の家に入らずに門を逾越しましたから、イスラエル人の長子は一人も殺されたものはありません。其後にそれを記念する爲に、毎年逾越の節をするので御坐いました。

やがて、二人は其羊を取り、町にてパンや果物等を求めて、先の家に還つて来て其羊に二本の棒を十文字に通し、かまごを主人に借りて、焼きました。二人は主人に御禮として其羊の皮をやりました。其羊の肉が焼けた時、二階の食堂に持つて行つて、パンと葡萄酒とを備へ、總ての用意が出来ました時に、再びキリストのゝらつしやる村に歸りました。

- 問一、二人は誰で御坐いますか。
- 二、何曜日御坐いますか。(木曜日で、節の第一番初めの日御坐います。)
- 三、何故水がめを持つた人に從て行きましたか。
- 四、誰が部屋を借りましたか。(誰かよくわかりませんが、逾越の祝の間、部屋を人に借す事はエルサレムの人の風習で御坐いました。)
- 五、逾越の節に小羊を捧げる事は何う云ふことを表して居りますか。(キリストは此世の小羊で御坐いまして、私共人間のために血を御流しになつたと云ふことを表はして居ります。)

六、其節の日には、何んなパンを食しましたか。(酵母を入れなパンで御坐います、イスラエルの人がエチプトを立つ時酵母を入れて焼く間がなかつたので、其時からそうなつて居ります)。

エルサレムの人に遣し、キリストの言葉。

「師いふ、我が時近づきければ、我弟子と共に逾越の筵を汝の家に爲すべし」と(馬太廿六、十八)。

第四十五章 逾越の祝(馬太廿六、二〇—三〇、馬可十四、十七—二十四)。

日暮れ方キリストは十二人の弟子と共に、ゆふげの席に御つきになりました。十三人はテーブルの周りに座つて居りました。キリストは御祈りをして、葡萄酒の一杯を取つて、共に御のみになりました。

晝間焼いて置いた小羊の肉や、たね入れぬパンはテーブルの上、用意が出来まし

たけれども、キリストは其れを召上らないうちに、起つて上衣を脱ぎ、腰に手拭をまどひ、盥に水を入れ、弟子の一人々々の足を洗ひ、手拭にて御ふきになりました。ペテロの番になりました時、ペテロは主が自分の足を御洗ひになるのをおそれおほく思つて拒みましたけれども、キリストが若し我汝を洗はずば、汝は吾れと關係ないと仰せられましたので、ペテロはそんなら、足丈でなく手も頭も洗ひ給へと申しました。併しキリストは足の外は洗ふに及ばず、其丈にて全く潔くなると仰せられました。そして又併し皆が悉く清い者ではないと御仰いました。これはイエスを祭司の長たちに渡さんとするイスカリオテのユダをさして言ひ給ふたので御坐います。

イエスは復上衣を着て、元の座に御つきになり弟子たちと共に食事を爲さいました。其時イエスは弟子たちに、今御自分が弟子たちになすつた様に、彼が此世を御去りになりました時、互に愛して他の人々によくするように御教へになり、そして

されど此十二人の中に一人我を金の爲めに、賣す者があると御仰いました。そこで弟子たちは驚いて、それは誰であらうかと思ひ恐れしました。イエスの愛し給ふ弟子のヨハチは、イエスの胸に自分の頭を付けて、よりかゝつて居りました。ペテロはヨハチに目配して、賣す者の誰であるか、それをキリストに尋ねさせました。そこでキリストは今我が食物を興へる所の者がそうであると曰つて、一つまみのパンを取り、キリストの側に居つたイスカリオテのユダにそれを御興へになりました。けれども、皆の者には誰であるかと云ふことがわかりませんでした。キリストは食物を御興へになりました時、ユダに速かに汝の爲さんと思ふ事を爲せと仰せられました。他の弟子たちは如何してキリストが此様な事を仰せられるのか少しも知りませんでした。ユダは一つまみの食物を受けて直ちにキリストを渡す爲めに外へ出て参りました、そしてもう此時は夜で御坐いました。キリストはユダが立ち出で、から後、他の弟子に色々御教へをなさいますして、キリストが弟子たちをお愛しな

されたやうに、彼が此世を御去りになつてからも、弟子等は互に愛するやうに仰せられ、パンを取り、謝して弟子等に分ち興へ、これは汝等のために興ふる我が身軀我が肉であると仰せられ、又其事を善くおぼえて居る様にと仰せられました。弟子等が皆それを食しますと、次に又葡萄酒の杯を御取りになつて、此は汝等の爲に我が流す所の血であると仰せられ、皆の弟子に飲ませ給ひました。(私共はこれを聖餐と申します)。

弟子たちは何んなに悲しく心細く思つたで御座いませう。キリストは御自分の御苦難の中にも弟子等をはげまし、御慰めになり、共に讚美歌をうたひ、起つて外に出で、月の光を便りにほの暗い道をたどり、川を一つ越して、向ふの園に御入りになりました。

問一、其食事を爲さいましたのは、何曜日で御座いますか。(木曜日でキリストの御死になる前日)。

- 二、誰がキリストの足を御洗ひになるのを初め拒みましたか。
- 三、ペテロは何と申しましたか。
- 四、キリストは何んと御答へになりましたか。
- 五、此度はペテロは何んと申しましたか。
- 六、キリストは皆の弟子たちの足を洗ひ終つてから何んと仰せられましたか。
- 七、逾越の節に足を洗ふのが常例で御坐いましたか。(いゝえ手を洗ふ丈で御坐います。)
- 八、キリストが何んと仰せられました時、弟子たちは驚き恐れられましたか。(汝等の中一人、我を渡す者があると)。
- 九、其時弟子は何を伺ひましたか。
- 十、誰が主の胸によつて居りましたか。
- 十一、誰がキリストに尋ねる様にヨハネに目配致しましたか。

十二、主は何んと御答へになりましたか。

十三、食事中誰が部屋を去りましたか。

十四、何故で御坐いますか。

十五、パンを御取りになり、與へて何んと御仰いましたか。

十六、葡萄酒の杯を御取りになつて、何んと御仰いましたか。

弟子を慰め給ひしキリストの言葉(約十四、十二)。

「汝等心に憂ふる勿れ、神を信じ、又我を信せよ、我が父の家には住家多し」。

第四十六章

ゲッセマネの園 (馬太、廿六、三六—五七、馬可十四、三一—五一、路、廿二、四—五四、約、十八、一—十二)。

イエスは十一の弟子と共にゲッセマネの園に入らしやいました。月の光りは繁つて居る橄欖樹の上を照らして、誠に奇麗な様で御坐いました。園の入口には八人の弟子を残し、ペテロとヤコブとヨハネとを連れて、中に御入りになり、汝等此處に

て、目を醒して居れと仰せられて、又少し奥の方へ御進みになり、地にひれ伏して、神様に御祈りを爲さいました。それは父よ此杯を私から取つて下さい、併し我が思ふ所を爲さんとするのでは御坐いません。あなたの御心のまゝになし給へど、御祈りになつたので御坐います。それから三人の弟子の處に来て、彼等が眠つて居るのを御覽になつて、目を醒して祈れと仰せられ、また元の處に御返りになり、先と同じ事を御祈りになり、再び弟子の處に入らしやいまして、三人共眠つて居るのを御覽になり、三度元の處に入らつして同じ事を御祈りになり、三度三人の弟子の處に入らつして、此度は彼等に起よ、我等は行くであらう、我を渡す者(ユダの事)が近づいたと御仰いました。其時すぐ近くに、十二人の弟子の一人であつたユダは祭司の長學者たちの處から刀と棒とを持つたる多くの人々を連れて、キリストを捕へに参りました。ユダは其者共に打合せをして、自分が接吻する人がキリストであるから、其人を捕へるがよいと言つて、キリストの近くに参りました。師よ、師

よ、と言ひながら接吻をいたしました。キリストは皆の者が、自分を捕へに来たこと云ふことを知つて入らつして、汝等誰を尋ねるのかと御聞きになりました。彼等はそれはナザレのイエスであると答へ、またキリストはそれは我であると仰せられました。其時人々は退いて、地の上にたはれました。彼等が再び起き上つて、キリストの近くに参りました時、ペテロは自分の持つて居ります刀を取つて、祭司の長の僕の右の耳を切り落しました。キリストはそれを御覽になつて、ペテロに劍を鞘にをさめよと仰せられ、僕の耳を元の如くおなほしになりました。弟子たちはキリストを一人残して逃げ出しましたから、キリストは敵の中に唯一人彼等が引き行くまゝにまかせ給ひました。

問一、園は何んと申しますか。

二、如何して、私共は其時月が輝いて居たと云ふことがわかりますか。(月の初めには新月が御坐います。逾越の節は月の半で御坐いますから、満月だと云ふ事が

わかります)。

三、キリストと共に園の中に入つた人は誰々で御坐いますか。

四、キリストは何んと言つて、御祈りを爲さいましたか。

五、キリストは三人の弟子が眠つて居るのを御覽になりましたか、何んと御仰いましたか。

六、キリストはユダに何んと御仰いましたか。

七、キリストが何んと御仰いました時、敵たちは地上にたほれましたか。

八、誰が僕の耳を切り落しましたか。

九、何故敵はキリストの弟子の逃げるのを許しましたか。(何故なればキリストは敵に向ひ、「若し吾れを尋ぬるならば、此輩を許して去らせよ」と御仰いましたか)。

キリストの祈 (馬太、廿六、三九)。

「我が父よ、若しかなは、此杯を我よりはなち給へ、然れど我が心のまゝを爲さんとするに非ず、みこゝろにまかせ給へ」。

第四十七章 祭司の家

(馬太、廿六、五七—六八、馬可、廿五、五一—六五路、廿二、五四—五五、六三—六五約、十八、十二—十六、十九—二五)。

イエスを捕へた兵卒や下吏等は、深更に學者や長老の集つて居ります、祭司の長のカヤパと云ふ人の家に連れて参りました。それから其門口につきましました時番をして居つた一人の下婢は、キリストを曳いて來た者等を皆入れました。

キリストの弟子等のうち二人其人々の後に從いてきた者があります。一人は入る事を許されましたが、ペテロは入ることを許されませんでした。ペテロの外の弟子は其家の人を知つて居りましたから、少し經つて後に出て参りまして、門番の女に頼んでペテロを入れて貰ひました。ペテロは入りましたけれども、キリストのゐらつしやる奥へ往くことを許されないので、僕等が澤山臺所に集まつて火にあたつて居

る其中に入つて居りました。けれども心はいつもキリストが、立つてゐらつしやる方について居りました。キリストは大きな堂に導かれ多くの學者や、長老や、祭司の長カヤバの居る前に御立ちになりました。いく人かの人はキリストを罪に落さうとして、色々間違つた證を立てました。即ちキリストが宮をこはして、三日にして建てるに御仰つたなど、申しましたが、其證も立ちませんでした。キリストが祭司の長の前に立つてゐらつしやる時、其僕はイエスの頭を打ちましたが、キリストは柔しく、何か悪い所があるならば證をたてよ、何の悪いこともないのに、何故に我を打つのであるかと仰せられました。祭司の長は終りに、何んのあかしもたちません時に、たつてキリストに向ひ、汝は神の子キリストであるかと聞き、キリストは汝が言ふ通りであると仰せられました。其時祭司の長は怒つて、上衣を裂き、如何にも悲し相にして、此人は神をけがすことを言つた。何も其外に證據を求めらば及ばぬといつて、學者たちに向ひ、汝等は何んと思ふやと聞きました。其

時皆彼は死刑が相當であると申しました。

キリストを下吏等に渡しました。其の下吏等はキリストを打ち、嘲り、唾まで致して罵りました。又キリストの目を隠し彼を打つて誰であるか、あて、見よといひました。キリストは此等の卑しき人々の嘲りさへも、何一口も仰せられず、御受けになりました。

問一、何處へ人々はキリストを連れ行きましたか。

二、二人の弟子のどちらが前に祭司の長の家に入りましたか。

三、誰が後で入りましたか。

四、如何して入りましたか。

五、其學者や何か、集まつて居る内で、誰が一番上で御坐いましたか。

六、キリストが祭司の長の前に立つてゐらつしやる時、誰が打ちましたか。

七、キリストは其卑しい人に何んと御仰いましたか。



八、何んな人がキリストに反對して、證を立てましたか。(偽のあかし人)。  
九、ある人はキリストに付いて何んと言ひましたか。

十、キリストは眞に宮をこぼつと御仰いましたか。(さうです、けれども宮と云ふのは彼の身体を御さしになつたので御坐います。神様はキリストと共にゐらつしやいましたから)。

十一、終りに祭司の長が怒つたのは、キリストが何んと御仰つたからですか。(彼は御自分のことを神の子であると仰せられました)。

十二、何んな宣告を彼等は致しましたか。(キリストの罪は死刑が相當である)。  
十三、僕等はキリストを打つて何んな事を聞きましたか。

苦難に付いてキリストの言葉。(イザヤ、五〇、六)。

「我をむち打つ者に我がせをまかせ、わがひげをぬく者に我がほゝをまかせ、恥と唾をさくる爲めに、面をおほふことをせざりき。」

第四十八章

立關

(馬太廿六、六九—終、馬可十四、六六—終、路加廿、二五—二七)

大きな部屋の火の周りに、澤山の僕等はあたまつて居りました。其中にペテロも居りました。ペテロは樂しさうな振をしようとして、務めて居りますけれども、キリストの御苦みの事を考へ出して、内心には大變悲しんで居りました。

丁度其時門番をして居りました婢は、出て參りまして、ペテロを見、此人は彼(キリスト)と共にをつたものであると申しました。ペテロは女よ我は彼を知らないと言へて、門の處に參りました時、丁度夜明け頃で御坐いまして、ペテロは雞の鳴くのを聞きました。門の處にも多くの人が居りまして、其内の一人の男は、前の婢と同じ様にペテロに、汝はキリストの弟子であると申しましたが、ペテロはさうではないと申しました。又三度目に他の女がペテロに、汝はキリストのなかまであると申しました。そこでペテロは神に誓つて、さうでないと言ひ切りました。ペテロ

がそのことを言ひ終るや否や、また鶏の鳴くのが聞えました。キリストは身をかへして、ペテロを御覽になりました。此時ペテロは始めて、キリストが今日鶏二度鳴く前に、三度我を知らずと言ふであらうと仰せられたことを思ひ出して、心から自分の悪かつたことを悔いて外に出て泣きました。

問一、僕共と共に誰れが火にあたつて居りましたか。

二、僕等はペテロに何んと申しましたか。

三、終りにキリストが何んと御仰つたことをペテロは思ひ出しましたか。

ペテロが思出でし言葉 (馬可十四、七二)。

「鶏二度なく前に、三度我を知らずと言はん」。「之れを思出して泣きかなしめり」。

第四十九章 自殺 (馬太廿七、三一―三二)。

殆んど夜が明けましたころ、あはれな一人の人は、御宮の方へ歩いて参りました。

これはイエスを敵に渡しましたユダで御坐います。ユダは自分が罪のないキリストを渡し、彼が死に定められ給うたのを聞いて、後悔いたしました。

今彼は御宮に入り、昨夜キリストを、死に定めた學者や祭司の長の坐つて居る處に往き私は罪のない人を渡して罪を犯したと言ひながら、曩に彼等から受取つた三十の銀を返しました。

學者や、祭司の長はそれは我等に何んのか、はりもないことであると言つて、それを拒みましたが、ユダは其金を其まゝにしてすぐ外に出て、エルサレムの都に近い恐ろしい谷に行き、崖の木に紐をつないで、首をくゝつて死にました。そして其体は谷の中に落ちて獸や鳥の餌食となりました。

祭司たちはユダが捨て、参りました御金を取り、これはけがれた御金であるから、御宮へは上げられないと言つて、陶工から畑を買ひ、旅人を埋める墓場といたしました。

悪事を爲したユダは、自ら自分を殺して死にました。

問一、其憐れな人は誰ですか。

二、堂の内に集つて居る人々は誰たちで御坐いますか。(サンヒードリムと云ふ七十人の議員の中のある人たちで御坐いました。其議員の首は祭司の長で御坐いました)。

三、ユダは御金を返した時、何んと申しましたか。

四、祭司たちは何んと答へましたか。

五、ユダの身は如何になりましたか。

六、初め祭司たちは何故御金を取りませんでしたか。(それは血の償で御坐いましたから)。

七、ユダが捨てた御金をどう致しましたか。

ユダと祭司の言葉(馬太、廿七、十四)。

「罪なき血を賣し、我は罪を犯しぬ、

吾等に於て何んぞあづからんや、汝自ら當るべし。」

### 第五十章 司の家(馬太、廿七、十一—三〇、馬可、十五、一—九、路廿)。

祭司の長、長老、學者等はキリストをカヤバの家から、都にて一番立派なローマの司ポンテオピラトの住んで居ります役所に連れて行きました。

其日は丁度逾越の節で御坐いましたから、人々はけがれると言つて役所の門の處に立つて、其内には入りませんでした。兵卒等はキリストを内に引いて参りました。人々がキリストは罪人であるも、他々の偽のあかしを以て言ひ立てるのを聞いてピラトはキリストに向ひ汝はユダヤの王であるかと尋ねました時、キリストはさうであると御答へになりました。又色々の事を聞きましたけれども、キリストは何んとも御答へに成ませんでした。ピラトは人々に向ひ我は此人に罪あるを見ないと言

ひました。そこで人々は此人はガリラヤから始めてユダヤを教へ此處まできて民を亂したのであると、口々に申しました。

ピラトはキリストがガリラヤの人であると云ふことを聞き、丁度其頃ヘロデ、(ガリラヤの王)がエルサレムに居りましたから、キリストに兵卒を附けて其處へ送りました。ヘロデはキリストを見て、大層喜びました。それは彼がキリストに付いて種々の噂を聞きまして、日頃遇ひたいと思ひ、又其不思議な事を見たいと思つて居りましたからで御坐います。其故色々キリストに尋ねましたが、キリストは何んども御答へになりませんでした。祭司や學者たちは其傍に立つて色々キリストを認へました。ヘロデは兵卒や何かと共にキリストを嘲弄し、美しい銀の衣を着せて、復ピラトの許に送りかへしました。

ピラトは再びキリストを見て、如何してよひかわかりませんでした。エルサレムの町の通りに、高い壇が御坐います。それは種々の色の石で、高くきつさあげたもの

で、其上には圓い場所が御坐います。此は裁判所であつて、ピラトは其席に坐つて人々に話しを始めました。彼は祭司の長や學者や多くの人々に向ひ、汝等此人を連れて来て、これは民を亂した者であるといふけれど、我は此人に何も罪あるを見ない、又ヘロデも此人に罪があるとは思はない、故に我は此人をむち打つて許すであらう、其は節には屹度一人の囚人を赦すさためであるからと申しました。さうすると祭司や、學者等は、是まで亂を起し人を殺して獄に入れられて居たバラバと云ふ者を赦し、キリストを十字架に付けるように願へと民等にすゝめましたから、彼等は皆バラバを赦せと呼びキリストを十字架に付けよと叫びました。

其時ピラトの夫人より使が参りまして、ピラトに、あなたは此人にかゝはつてはいけません、私は今日の夢に彼のことについて哀しいことを多く見ましたと申しました。ピラトは此れを聞いて恐れ、其處で水にて手を洗ひ民等に向ひ此正しき人の血に(キリストの事)我は罪はない、汝等自ら其罪にあれと申しました。祭司等は

此人の血は我等の子孫に關るであらうと申しました。(それはキリストを殺さなければならぬと云ふ事で御坐います)其時ピラトはバラバを赦し、イエスを鞭打ちて十字架に付けるために、下吏どもに渡しました。

兵卒等は役所にキリストを連れ行き、多くの人の前にて、着物をぬがせ、紫の外衣をさせ、棘の冠を其頭にかぶらし、葦の杖を右の手に持たせ、其前に坐つて嘲弄し、ユダヤ人の王安かれと申しました。復鞭打ちて元の着物をさせて十字架につけるために曳き行きました。

問一、誰がユダヤの司で御坐いましたか。(ポンテオピラト、ローマの王シーザーからつかはされて居りました)。

二、彼はエルサレムの何處に往んで居りましたか。(昔しエルサレムの一番よい王であつたヘロデ大王のたてた立派な宮殿に住んで居りました)。

三、何故祭司等は役所に入りませんでしたか。(何故なれば逾越の節の日に役所へ

入るは、汚れた事として居つたからで御坐います)。

四、逾越の節はいく日御坐いますか。(一週間御坐います)。

五、人々はキリストを何んな罪があると言ひ認へましたか。(自分を王と呼んで居ると申して認へました)それはローマの王シーザーがユダヤを支配して居るから、外に王と呼ぶ者を、ピラトが罪するかと思つたからで御坐います)。

六、ピラトは誰のさばきを受けさせやうとしてキリストを送りましたか。(ガリラヤの王ヘロデの處に送りました)。

七、何故ピラトは手を洗ひましたか。(無罪なる人を罪にした其大罪を洗ひ去る爲で御坐いました)けれども水で罪を洗ふことは出来ません)。

八、キリストのかはりに誰を其日に救すやうに民等は申しましたか。

九、兵卒等はキリストを嘲弄して何んと言ひましたか。

キリストに付いて、ピラト及びユダヤ人の言葉。(約、十九、十四—十五)。

「汝等の王を見よ、

これを除けこれを除け、十字架につけよ、カイザルの外に我等に王なし」。

第五十一章 十字架

(馬太、廿七、三二—五四、馬可、十五、二〇—三九、路、廿三、二六—四九、約、十九、十七—三〇)

エルサレムの町には窓にも、戸口にも、家々の屋根の上にも澤山の人が外をながめて居ります。それは今キリストが兵卒共に圍まれて、ゴルゴタ(されかうべ)と云ふ意味)と云ふ處に入らつしやるのを見る爲で御坐います。

キリストは肩に重き十字架の木を負されて、歩いて入らしやいます。澤山の兵卒等は此罪のないキリストに十字架まで負はせて、自分たちは其周りについて嘲つたり罵つたりして、あらゆる悪口を申しました。丁度途中でユダヤ人で御坐いましたがアフリカで生れたクレチのシモンと云ふ人に逢ひました時、兵卒等は無理にキリストの十字架を其人に負はせて参りました。ガリラヤからきた多くの婦人たちは泣き

ながらキリストの後に付いて参りました。キリストはこれを御覽になり、我が爲になくなと仰せられました。

ゴルゴタと云ふ處はエルサレムの近くで御座いまして、岩や石ばかりの恐ろしひ處で、其處此處には人の骨など澤山散つて居りました。此處に着きましたのは、丁度朝の九時頃で御座いました。殘酷なる兵卒等はキリストの着物をはぎ、彼の手と足の上から、大きな釘を十字架に打つけ、血しほの滴るのを見ても何んとも思ひませんでした。

丁度キリストの右左に盗人が二人同じやうに十字架に打ち付けられました。一人の盗人は人々とともにキリストを罵り、汝もし神の子ならば汝と我等を助けよなど、申しました。外の一人は最早全く自分の罪を悔いて居りまして、他の盗人に向ひ汝は神を恐れないのか、我等は罪を犯したけれど、此人(キリスト)は罪がないのに十字架につけられるのである、と言つてキリストに向ひ、主よあなたが天國に入せら

れましたら私を思ひ出してくださいと願ひました。そこでキリストは此人に向ひ、  
汝は今日われと共に天國にあるであらうと仰せられて、其人の罪を赦し、御慰めに  
なりました。それゆゑ其人は心やすく死ぬることが出来ました。

キリストは御自分が悪い人々のために、斯様な辱めを御受けになりながら、尙其人  
々を御憐れみになり、十字架の上にて父よ彼等を赦し給へ、彼等は其爲す所を知ら  
ないからで御座います、と人々の赦しを神様に御祈りになりました。

十字架の下の方では兵卒等はキリストの衣をさいて分けて居ります。彼等は一つの  
下衣を取り、それが全く縫目のない一つの片で出来て居るのを見て、それを裂くの  
を惜しいことと思ひ、裂かすに其まゝ、籤を抽いて分けました。澤山の人々は其側を  
通りキリストを見て行きました。

司のピラトはキリストの首に罪標を付けユダヤ人の王キリストと、ヘブル(ユダヤ  
の言葉)とローマとギリシヤの言葉で書かせました。祭司等はそれを見て、キリス

トが自らユダヤ人の王であると言つたことを書く様に申しましたけれどもピラトはそれ  
を書きかへさせませんでした。又キリストは御自分に向つて嘲り罵る多くの人々の  
中に御母さんのマリアと御自分がお愛しになつた弟子の泣いて居るのを見て、今か  
ら御母さんのマリアは其弟子の母となり、弟子は其子となる様に仰せられました。  
今まで輝いて居つた日はひるの十二時から三時頃までまっ暗になり、岩は裂け、地  
は震ひ、御宮の幕は真中から二つに裂けました。人々は恐れをのき、兵卒等はほん  
どうにキリストは神の子であると言ひました。キリストは我濁くと仰せられ、兵卒  
の一人は海綿に醋を浸し、キリストの口につけました。キリストはこれを御受けに  
なつて、父よ我がたましいをあなたの御手に託けますといつて、いきを御引取りにな  
りました。人々は今になつて始めておどろき恐れて家に歸りました。

問一、誰がキリストの十字架を負ひましたか。

二、キリストは泣いて居る婦人たちに向ひ、何んと仰せられましたか。(我がため

に泣くな、汝等と汝等の子孫のためになげと仰せられました。

三、何故婦人たちは自分等の爲に悲んでなかなければなりませんか。(ユダヤ人が主キリストを殺すことによつて、神の罰を蒙り、間もなくローマ人が來りてエルサレムを亡ぼしますから)。

四、キリストが十字架につけられ給うた處は何んと申しますか。(ゴルゴタと云ひ「されかうべ」と云ふ意味で御坐います。ギリシヤ語ではカルバリと申します)。

五、いく度キリストは十字架の上で御話になりましたか。(七度で御坐います)。

六、彼の一番はじめの祈りは何んで御坐いますか。(キリストを殺した人々の爲に御祈りなさいました)。

七、キリストは盗人に何んと仰せられましたか。

八、キリストは御母さんと弟子とに何んと仰せられましたか。

九、キリストが何んと御仰つた時、兵卒等は醋を彼の口につけましたか。

十、キリストの終りの御祈りは何んですか。

十一、兵卒等は地がふるみました時何んと申しましたか。(眞に此は神の子である)。

盗人の祈りと主の御答 (路廿三、四二—四三)。

「主よ御國に來らん時われを思ひ出で給へ、まことにわれ汝に告げん、今日汝はわれと共に樂園(天國のこと)即ち神の御國のこと)なるべし」。

第五十一章 兵卒の鎗 (約十九、三一—三七)。

ゴルゴタの山の三つの十字架上には、血しほの滴る死骸が懸つて居ります。暗さは最早あともなく消えて、日の光は三つの十字架の上に、輝いで居ります。其處からはるか離れた處に、幾人かの婦人と他の人々、又一人の弟子とが立つて、キリストの十字架を見て居りました。



俄かにいく人かの兵卒が出て参りまして一人の盗人を見、それがまだいきをして居りましたから其足を折り、又外の盗人の足をも折りました。それからキリストの十字架を見ますと、キリストには最早いきが絶えて居るのを見て、彼の足を折らずに唯鎗で其脅を刺しました時に、血と水とは流れ出でました。

兵卒等はピラトから遣はされたので御坐います。それは祭司たちがピラトに向ひ、次の日は安息日であるから、死がいを取り除く様に願ひましたからで御坐います。此方に立つて居りました人々はいきをころして、兵卒等がキリストの御体を、如何するかと思つて、見て居りましたが、兵卒等は別に何にもせず、其まゝ其處を去りました。

問一、誰が兵卒等を送りましたか。(ポンテオ、ピラト)。

二、誰が兵卒等を送る様に、ピラトに願ひましたか。(祭司や、長老たちが願ひました)。

三、何故彼等は十字架につけられた人を、又殺す様に願ひましたか。(それは安息日までに、其死骸を除くことの出来るやうにするためで御坐いました。安息日は金曜日の午後六時から始まり、次の土曜日の午後の六時までで終るので御坐います)。

四、何故ユダヤ人は安息日に死がいを懸けて置くのを厭ひましたか。(申命記に、神様の律として夜中に死がいを懸けて置くのを禁じて御坐いますから)。

五、キリストが御なくなりになつた次の安息日は、外の安息日と違ひましたか。(さうです、逾越の節の安息日で御坐いましたから)。

キリストの再び來り給ふことに付いてのヨハネの言葉(黙一、七)。「視よ、彼は雲にのりて來る、凡べての目彼を見ん、彼を刺したる者も亦これを見るべし、且つ地の諸族これが爲にかなしまん」。

第五十三章 葬式(馬太廿七、五七―六一、馬可十五、四二―)。

イエスの弟子となつて、大層正しいアリマタヤのヨセフと云ふ人は、イエスが十字架につけられ給うたことを聞いて甚く悲しみ、せめて其なきがらでも葬りたいと思ひまして、ローマの司のポンテオピラトの所に其許を受けんために参りました。ピラトはイエスがもう御死になつたことをよく知りませんでしたから、まづ一人のローマの兵隊の長を呼んでイエスが御なくなりになつたと云ふことを確めて、それから彼を葬ることを許しました。そして尙ピラトはイエスの死骸を十字架から下すやうに兵卒等に命じました。兵卒どもはゴルゴタに行き、十字架をたはしイエスの手足に打つけた釘をぬき取つて、其死體をヨセフに渡しました。

ヨセフは大層な御金持ちで御坐いましたから、イエスの死骸を包む用意に澤山の白い布を持つて参りました。又ヨセフと共に、(前の夜イエスの處に行つて教を受けた) ニエデモは香を百斤ばかり持つて参りました。死骸を白布で包み、香を入れて葬るのがユダヤ人のならばして御坐いましたから、二人はイエスの死骸を其通りにして

其恐ろしいザルゴタの山から、すぐ近くの墓所に運んで行つて、ヨセフの持つて居る新しい墓所に入れて置きました。

ユダヤの御墓は地上に穴を掘るのではなく、岩に穴を横からあけて其中に死骸を置き、其穴の口に大きな石を以て塞いでおくので御坐いました。

マダダラのマリアと又外の婦人たちは其墓所に行つて葬式がすんでから、日の暮れ方に悲しみながら家に歸りました。

問一、誰がイエスの死骸を葬ることを願ひましたか。

二、此ヨセフは何んで御坐いましたか。(ユダヤのサンヒードリムの議員で、富める人で御坐いました)。

三、外のも一人は誰で御坐いますか。

四、誰にヨセフはお願を致しましたか。

五、ピラトは願を許す前に誰にキリストがもはや御死になつたと云ふことを尋ね

ましたか。

六、誰の墓に置きましたか。

七、何時ごろ葬りましたか。(丁度金曜日(ちやうどきんようび)の六時少し前(じつ)前)。

キリストの墓(約十九、四十一)。

「十字架につけし其邊に園あり、園の中にまだ人を葬りし事なき新らしき墓あり」

第五十四章 墓の番兵 (馬太廿七、六二—終)。

エルサレムの都にては、澤山の人々が御宮に御まわりをいたして居ります。此日もまだ逾越の節の日で安息日で御坐いましたから町々には店を出して、色々の物を賣つては居らず皆休んで、御宮に参り讚美歌をうたひ、御祈りをして居ります。此禮の樂しき日にも、多くの人々はそんなに樂し相な顔をして居りません。ある婦人たちは泣いて目を赤くし、またある人は殆んど悲しみのために、話しさへ出來ないほ

ごです。

祭司の長とパリサイの人たちは集まつて相談して居ります。それはキリストが此世にゐらつした時、御死になつても、又御復活になると云ふことを御仰つてゐらつしやいました。それを此人たちも聞いて居りましたから、もしもキリストの弟子たちがキリストの死がい盗み出すといけませんから、御墓へ番兵を置かねばならぬと云ふことを相談いたしました。此人々は立派なピラトの家に行きまして、ピラトに其事を話し、番兵をキリストの墓に付けて下さいと願ひました。

ピラトが許しましたから祭司の長とパリサイの人たちはエルサレムの御宮の門を守つて居る兵卒等を連れて、ゴルゴタの山近いキリストの御墓に行つて、大きな石の戸をかたくし、柔皮の紐でよく結んで其上に封印して、誰も其御墓の中に入ることが出來ないやうにして、自分等は御宮に歸り、兵卒等には其處に番をして居るやうに言ひ付けて置きました。兵卒等は夜もひるも其處に居りました。

問一、安息日に誰がピラトの處へ参りましたか。(ユダヤ人の祭司で御坐います。  
 二、ピラトは何處の兵卒等を遣はしましたか。(ローマの兵卒で、御宮の番兵で御  
 坐いました)。

三、何故祭司たちはキリストの弟子たちが其死骸を盗み出しはせぬかと、恐れて  
 居りましたか。(祭司たちは弟子たちが其死骸を盗み出して、キリストはよみがへり  
 給うたと、人々に言ひ觸らしでもすると、人々はそれを信するであらうと云ふこと  
 を大層恐れて居りました)。

キリストの敵の望み(詩編、四十一、八)。

「彼たふれ伏してふたゝび起ることなからん」。

第五十五章 復活 (馬太六、一―十。馬可、十六、)。

キリストの墓の前に五六人の兵卒等は、夜の明くるのを待つて、皆手には槍を持つ

て、立つて居りました。其時急に大きな地震が御坐いまして、キリストの墓の封印  
 は取れてしまひ、入口にあつた大きな石はころび出でました。其墓石の上に美しい  
 天の使が丁度王様が玉座に坐つてゐらつしやる様に坐つて居りました。

兵卒等はこれを見て大層驚き恐れまして逃げることさへ出来ず、氣絶して地上にた  
 はれました。それから臆て氣がついて起き上り、急いで町の方へ逃げ歸りました。

其すぐ後でマグダラのマリアとサロメとも一人のマリアとの三人はキリストの御墓  
 に参りましたが、御墓の石が穴の外にまろび出て居るのを見て、マグダラのマリア  
 は弟子等に其事を告げんために急いで歸りました。其時天の使は、もはや其石の  
 上には見えませんでした。外の二人はこはくながらも、中に入りました但其處に  
 はキリストの死骸がなくて、唯眞つ白な衣をきた天使が坐つて居るのを見てま  
 すく懼れました。其時天使は物柔かに、キリストは御甦りになり、ガリラヤに  
 入らつしたから其事を弟子等に告げるがよいと二人に御話しになりました。二人は

懼れながらも喜にみちて、其事を弟子に告げんために歸つて行きました。

マグダラのマリアは弟子のペテロとヨハネに墓の入口の石が轉ばしてあつたことを話しましたから、二人は大急ぎで墓に参りました。ヨハネの方が先に墓につきまじたけれど、墓の中に入らず、ひざまづいて覗いて見ましたが、最早や天の使は見えず唯キリストの死骸に巻いて置いた白い布がたゝんであつたばかりで御坐いました。ペテロはすぐ後からきて、墓の中に入りました。其時キリストの顔を包んだ布も其處にちやんとたゝんであつたのを見て尙おそろさましました。又包んだ布も一緒に入れた香も、其まゝ其處に御坐りました。二人の弟子は今たしかにキリストが御坐りになつたことを知り、キリストの御母さんに其事を告げんために歸りました。併しマグダラのマリアは墓の近くにひざまづいて泣いて居りました。よく墓の中を見ますとキリストの足のあつた處と、頭のあつた處に一人づゝ、二人の天の使が白い衣をきて坐つてゐて、マリアの泣くのを見て、女よ、なせ歎くのであるかと申し

ました。マリアはキリストの御坐りになつたことをまだ知りませんから、墓の中にキリストの死骸のないのを見て、泣いてゐたので御坐います。そこで其事を天使に答へながら後を見ました時、キリストは其傍に立つてゐらつしやいました。キリストはマリアよと仰せられましたので、マリアはキリストが御坐りになつたことを始めて知つてラボニ(主よ)と申しました。キリストは汝は往つて、我が兄弟に、我が父又汝等の父なる神の許に昇るといふことを告げよと仰せられました。それからマリアは急いで歸つてキリストの仰せられたことを弟子たちに話しました。問一、誰が一番はじめにキリストの御墓に参りましたか。(マグダラのマリアとサロメ(ヤコブとヨハネの御母さん)と、もう一人のマリア(ヤコブとユダの御母さん)とで御坐いました)。

二、誰が墓の石の取り除けられてゐるのを見て、弟子たちの處に立つて参りましたか。(マグダラのマリア)。

- 三、何といふ二人の弟子たちに話しましたか。(ペテロとヨハネとに話しました)。
  - 四、二人のうち誰が先に墓につきましたか。
  - 五、誰が先に墓に入りましたか。
  - 六、墓の中に入つた二人の婦人に、天の使は何んと申しましたか。
  - 七、誰が墓の近くで泣いて居りましたか。
  - 八、天の使は何んと申しましたか。
  - 九、此三人の外の婦人たちも墓に参りましたか。(ハイ五六人の婦人が参りました) 此人たちも天の使をば見ましたがキリストをば見ませんでした)。
  - 十、キリストが御甦りになつた日に弟子の内誰がキリストを見ましたか。(ペテロが見ました) けれども、何處で何時頃見たかよくわかりません。キリストは唯ペテロに御現はれになり、ペテロの前に主を知らないと言つた罪を御許しになりました)。
- 甦り給ひしキリストと、マグダラのマリアとの言葉。(約、廿、十五)

「婦よ、何んを哭くや、誰をたづぬるや、

君よ、汝もし彼(キリスト)をばこび移し、ならば、何處におさしや我に告げよ、我てれを取るべし、

マリアよ、

ラボニ(主よ)。

第五十六章 夕方の旅 (馬可、十六、十二—十三。路加、廿四、)。

キリストが御甦りになつた日の夕方、二人の弟子はエルサレムから三里ばかり離れて居るエマフと云ふ村に参りますので、其道すがら二人は今朝キリストの御墓であつた色々な事を話しながら行きました。其時キリストは此二人の弟子と共に歩いてゐらつしやいました。けれども、二人はそれを誰か旅人があるとはばかり思ひましてキリストであることを知りませんでした。キリストは二人の弟子に向ひ汝等哀し

みながら、何を話して居るのであるかと仰せられました。弟子のクレオバは答へて「キリストが御廻りになつたと云ふことを話して居ると申しました。キリストは彼は（キリスト御自分のと）十字架の苦難を受けてから甦るべきものではないかと仰せられました。それから共に村の近くに來ました時、キリストが行き過ぎようと思つて居ましたのを、弟子たちは日も暮れたから、自分等と共に御泊りになるように願ひました。そこでキリストは二人と共に家に御入りになりました。御飯につきましてから、キリストはパンを御取りになり御祈りなまつて、其をさいて二人に與へ給ひました。二人は此時始めて是はキリストであるらしやると云ふことがわかりました。けれどもキリストはすぐ見わなく御なりになりました。それから二人の弟子は急いで、エルサレムに歸つて弟子たちに其事を語りました。そして丁度弟子等が互に御話しをして居ります間に、キリストは其處に御現れになり汝等安かれと仰せられましたので、皆弟子等は驚きました。キリストはまた御自分が御廻りになつたことを

仰せられ、手と足の釘のあとを御見せになりました。それから食物を御のぞみになつたので、焼魚と蜂蜜を上げましたらそれを召上りました。そして弟子たちに色々の御教を爲さいました。昨日までは泣いて居つた弟子たちは今は喜に満て居ります。問一、二人の弟子は何んと申すものですか。一人はクレオバと云ひ、一人は誰かよくわかりませんが、ルカであつたかも知れません。路加傳には委しく其ことが書いて御坐いますから、また使徒たちはけんそんで御坐いまして、必要の時でなければ決して自分たちの名をかきませんから。二、何處へ行くので御坐いましたか。エマオと云ふ村へ行くので御坐いました。其處はエルサレムから北の方に三里ばかり離れた處で御坐いました。三、二人は何を話し合つて居りましたか。四、此二人はキリストの御廻りになつたことを聞きませんでしたか。彼等は聞いて居りました。

五、キリストは二人の弟子に何をお話しなさいましたか。(舊約に書いてある御自分の事に付いての預言を御話しになりました。)

六、二人は如何してそれがキリストであることを知りましたか。

七、エルサレムで弟子たちの居る部屋にキリストが御現れになつた時初め何と仰せられましたか。

キリスト 甦りて後、弟子に言ひ給ひし言葉(路廿四、三六)。

「汝等安かれ、汝等何ぞ驚くや何ぞ心に疑起るや我が手我が足を見て我なるを知れ」。

第五十七章

トマス

(馬可十六、十四、約、廿、二四—三〇)。

キリストが御甦りになつた日に、弟子たちの集まつて居る處に御現はれになりました。其時トマスと云ふ弟子は其處に居りませんでした。外の弟子たちがキリストが御甦りになつて自分たちの處へ入らつしたと申しても、トマスは信じませんでした。

彼はキリストの手と足との釘のあとを見なければ信じないと言つて何うしてもそれをうそだと思つて居りました。

其後八日過ぎまして、弟子たちは皆トマスも共に門を閉ぢて部屋の中にて話して居りました。其時キリストは其中に御立ちになり、汝等安かれと仰せられました。

トマスはそれを見て驚きました。そこでキリストはトマスに向ひ、汝指を伸べて我が脅にさせ汝信せよと仰せられました。トマスはキリストの甦り給ふたことを今始めて信ずることが出来て、我が主よ我が神よと申しました。キリストは尙弟子たちを御教へなさいまして、其處を御去りになりました。

問一、キリストが初めて弟子たちに御現はれになつたとき、何の弟子が居りませんでしたか。

二、トマスは何の弟子たちがキリストを見たと言つたとき何んと申しましたか。

三、いつトマスは甦り給うたキリストを見ましたか。(キリストの御甦りになつた



日曜日にちえうびの次つぎの日曜日にちえうびで御坐ございます。

トマストマスに仰おほせられしキリストキリストの言葉ことば。(約ヨハネ、廿二十、二九)。

「汝我なんぢわれを見みしによりて信しんず、見みずして信しんずる者ものは福さいはひなり」。

### 第五十八章 朝飯あさはん (約廿一、一一二五)。

弟子でしのペテロペテロとトマストマスとナタナエルナタナエルとヨハネヨハネと外ほかに三人にんの弟子でしたちは共にとも、或夕方あるゆうがたガリラヤガリラヤの湖みづうみに、すなごりに出掛でかけました。

此七人このにんの者ものは夜よごほし働はたらきましたたけれど夜よが明あても、まだ何なにんの獲物えものも御坐ございませんでした。そこで彼等かれらは最早もはや疲つかかれはて、歸かへらうと致いたしました。其時そのときイエスは岸きしに立たつてゐらつしやいましたたけれど、弟子等でしたらはそれがキリストキリストでゐらつしやることを知しりませんでした。キリストキリストは弟子でしたちに向むかひ、食物しょくぶつがあるかと御おたづねになりましたら、彼等かれらはございませんと答こたへました。キリストキリストはそたを御聞おききになつて

網あみを舟ふねの右みぎの方ほうに打うてと仰おほせられました。それから弟子でしたちはすぐに其様そのやうにして、網あみを引ひき上げやうと致いたしますと、不思議ふしぎにも澤山たくさんの魚うながかゝつて引ひき上げるとが出來でない程ほどで御坐ございました。併しかし網あみは破やぶれませんでした。ヨハネヨハネは之これを見てペテロペテロに向むかひ、これは主しゅであると申まうしました。そこでペテロペテロは急いそいで着物きものをきて、舟ふねから出いで湖みづうみの中なかを渡わたつて岸きしに行ゆきました。そして外ほかの弟子でしは魚うなを引ひきながら舟ふねにて岸きしに上ありました。其處そこには火ひが御坐ございまして、パンも御坐ございました。

キリストキリストが魚うなを少すこしもつて來こいと仰おほせられましたから、ペテロペテロは岸きしに曳ひいてきた網あみを見みますと大おほきな魚うなが百五十三尾ひゃくごじゅうさんび入いつて居ゐりました。それを少すこし持つてきて焼やきましました。キリストキリストは弟子でしたちに、來こて食しせよと仰おほせられ、御手おてづからパンパンを取とりましてこれを弟子でしたちに分わけ與あたへ、又魚またうなをも其様そのやうになさいました。

それがすみましてから、キリストキリストはペテロペテロに向むかひたまうて汝なんぢは我われを愛あいするかと三度たび仰おほせられました、前まへにペテロペテロは三度たびイエスイエスを知らないと申まうしたことがありますから

キリストは今三度彼に我を愛するかと仰せられたので御坐います。

問一、弟子たちが漁りをした湖を何んと申しますか。(ゲチザレの湖、テベリア又はガリラヤの湖と申します)。

二、七人の弟子たちの名は何んと申しますか。

三、ナタナエルの外の名は何んと申しますか。(バルトロマイと申します)。

四、誰が初めにそれがキリストであるらしやることを知りましたか。

五、誰が湖の中を渡りましたか。

イエスとペテロとの言葉(約廿一、十八)。

「ヨナの子シモンよ、汝此等の者にまさりて我を愛するや、主よ然り我が汝を愛することは汝知れり」。

第五十九章 昇天 (使徒一、六—十三、撒加利亞十四、四)。

キリストの十一の使徒はガリラヤに行きまして、キリストが行けと仰せられました山に上つて待つて居りました。

キリストは御現れになりました。弟子たちは何んなに喜んで御坐いましょう。此時又キリストは五百人の信者等にも御現れになりました。それからキリストも弟子もエルサレムに歸りました。

十一の使徒とイエスとはエルサレムにて樂し相に御話をして居ります。

弟子たちはキリストの御仰る御言葉を注意して聽いて居ります。今日はキリストは此世を去つて天に御昇りになる日で御坐いますから、弟子たちに色々御話をしてゐらつしやいます。少し立ちましてから、エルサレムの町を歩いて、橄欖山の方へ皆參りました。

此山は前にもキリストが弟子等と共に度々御祈りをしになど入らつしやつた山で御坐います。

キリストは十一の弟子に向ひ、汝等はいくくの方々の國々に行つて説教を爲し、人を教へて洗禮をさづけ、キリストの教を播めよと仰せられました。又キリストは彼等をなぐさめ彼等の力となる爲に聖靈を御下しになるまで、エルサレムに止まつて居る様にと仰せられました。それから山の頂に入らつしやいまして手を上げて弟子たちを祝福なさいました。其時キリストは空中高く天に御昇りになりました。弟子たちは顔を上げてキリストの御姿の見えなくなるまで見て居りました。彼等は思ひがけもなく其傍で天の使のさやくのを聞きました。天の使は弟子たちに向ひ、キリストは再び來り給うことを言つてなぐさめました。弟子たちは地に伏し、御昇りになつた主なるキリストを拜し、其山を下りエルサレムの宮に行つて拜しました。

問一、キリストは御薨りになつてから、此世に幾日間ゐらつしやいましたか。(四十日間)

二、何處にキリストは其間住んでゐらつしやいましたか。(それは誰も知りませんが、時々弟子たちに御現れになりました。又ガリラヤに往らつしやつて五百人の信者たちにも御現はれになりました。)

三、聖書の中に五度キリストが御現れになつたと云ふことが書いて御坐います。即ち

(イ)キリストが御薨りになつた日(日曜)エルサレムで御現はれになり、

(ロ)次の日曜トマスに御現はれになつた時エルサレムで御現れになり、

(ハ)ゲネサレの湖に御現はれになり、

(ニ)ガリラヤの山の上で一度、

(ホ)昇天なさる少し前にベタニヤとエルサレムで御現れになりました。

四、キリストが終りに弟子たちに命じ給うたことは何んで御坐いますか。(キリストの御教を人々に教へ洗禮を施すことで御坐います。)

五、イエスの御昇天の後誰が弟子たちを教へましようか。(なぐさめるもの即ち聖靈で御坐います。)

六、いつ聖靈は下りましたか。(キリストの御昇天後十日目に下りました。其日を、今かうりんせつと申します。)

七、聖靈は何處に御坐いましょうか。(私共の名々の心の内に働いて居ります。)

八、如何して再びキリストは來らつしやいますか。(橄欖山に雲にのつて御現れになります。)

弟子に言ひし天使の言葉(使徒一、十二)。

「ガリラヤ人よ何故に天を仰ぎて立てるや、汝等を離れて天に上げられし此イエスは汝等が彼の天に昇るを見たる如く亦來らん。」

明治四十二年六月廿四日印刷  
明治四十二年六月廿七日發行

譯者 三神英子

發行人 堀田達治

印刷者 東京市京橋區銀座四丁目一番地  
デー、エス、スペンサー

發行所 東京市京橋區銀座四丁目一番地  
教文館印刷所

印刷所 東京市京橋區銀座四丁目一番地  
教文館印刷所



不許  
複製